

令和4年度

研究紀要

研究主題

「主体的・対話的で深い学び」
の実現に向けた授業づくり



仙台市中学校教育研究会 音楽研究会

令和4年度 仙台市中学校教育研究会 音楽研究会紀要目次

1. 発刊にあたって	2
2. 令和4年度事業	3
3. 音楽研究会 研究実践報告（市教研事務局提出文書）	4
4. 研究会	
(1) 第1定例会要項	6
(2) 第2定例会要項	7
(3) 第3定例会要項	8
(4) 第1定例会資料	10
(5) 第2定例会資料	14
(6) 音楽研究会組織	18
(7) 第3定例会<授業研究会>	
・創作 「イメージをもち、まとまりのある曲をつくろう」	19
仙台市立愛宕中学校 教諭 高子 育美	
・器楽 「ギターに親しもう～フォークギターで歌おう」	27
仙台市立上杉山中学校 教諭 工藤 友美	
5. 令和4年度 教育課程研究協議会 発表要項	33
仙台市立鶴が丘中学校 教諭 煙山 真由美	
6. 第74回仙台市小中高児童生徒作詞・作曲コンクール結果	37
7. 各学校実践記録	38

この「令和4年度 音楽研究会紀要」に掲載する全ての内容は、個人情報保護法に基づき「第三者への公開・開示や不当な目的利用、複写及び複製」を禁じます。

発刊にあたって

仙台市中学校教育研究会
音楽研究会長 森 和子

今回の学習指導要領の改訂では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める際の指導上の配慮事項を総則に記載するとともに、各教科の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」において、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めることが示されました。

本研究会におきましても、移行期間の平成30年度より『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり』を研究主題として研究及び研修を進めてまいりました。今年度は更に、GIGAスクール構想を踏まえ、研究部では、会員にICT機器活用状況調査を実施し、クロームブックやタブレット、音楽アプリなどの効果的な活用の実践発表や研究授業に取り組み、会員の研修を積み重ねてきました。第1回定例会にて、ICTを活用した授業づくりについて実践発表をしていただきました五橋中学校の舟山也寸志先生、第3回定例会にて、研究授業を提供していただきました、愛宕中学校の高子育美先生（創作）、上杉山中学校の工藤友美先生（器楽）には、本研究会の大きな学びとなりましたことに感謝申し上げます。

創作の研究授業では、生徒たちは、「Chrome Music Lab」を活用して創作に取り組み、他者の作品についての感想等は、「ロイロノート」のカードを活用しながら意見交換し、創作楽曲の理解や改善につなげる姿がありました。

器楽の研究授業では、ギターに取り組み、「ロイロノート」を活用し、奏法や音源の動画を載せ、各自で自主的に練習をする姿、生徒自身が自分の変容を把握できるように、前時に入力した振り返りを、導入時に確認する姿がありました。

研究部を取りまとめ、御尽力いただきました煙山真由美先生、各部会チーフの先生方、指導案検討会に参加いただきました先生方、そして当日指導助言をいただきました岩倉一治校長先生、小野寺淳教頭先生、御協力いただきました会場校の皆様、改めて御礼を申し上げます。

また、今年度は、教育センター共催による第2回定例会において、「学習指導要領の趣旨を踏まえた音楽科における指導と評価」としまして、国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 河合神和先生に御講話をいただきました。

学習指導要領完全実施に伴い行われました仙台市教育課程研究協議会では、「主体的・対話的で深い学びを実現する学習指導の在り方 ～表現ワードやICT機器の活用を通して～」としまして、鶴が丘中学校の煙山真由美先生に研究発表をしていただきました。

第74回仙台市中学校作曲コンクールは、11月7日から11日の間での自校開催とし、参加校10校により、42点の作品数となりました。自校開催等による柔軟性を生かし、今後、各校にて、より一層生徒の創作意欲向上に努め、作品数が増えていくことを期待しております。

令和4年度仙台市小・中学校音楽発表会は、新型コロナウイルス感染拡大を鑑み、今年度も、残念ながら中止となりましたが、各校では、全領域の授業、校内合唱コンクール等において、感染対策を取りながら、生徒の学びを推進しております。

この研究紀要には、研究授業の指導案をはじめ、発表資料、研修資料、実践記録等が掲載されております。音楽科の先生方が、自校における教育活動を展開する際に、大いに参考にしていただければ幸いです。次年度、各学校が更に豊かな音楽教育活動を推進していくことを心より願っております。

最後になりましたが、音楽研究会会員の先生方の御協力、副会長、幹事長を中心とした常任幹事の先生方の御尽力により、今年度の仙台市中学校研究会音楽研究会の活動が大変実りあるものとなりましたことに、重ねて感謝申し上げます。

本研究会のますますの発展と会員の皆様の一層の御活躍を祈念しまして、発刊にあたっての言葉といたします。

令和4年度 仙台市中学校教育研究会音楽研究会事業

月	日	曜	仙中音研・教育委員会・教育センター	共催事業・宮連中・宮音協・NHK 他
5	2	月	第1回幹事会（トークネットホール仙台）	
	12	木	第1回定例会（旭ヶ丘市民センター）	
7	26	火	中学校教育課程研究協議会（市教育センター）	
	29	金		音楽実技講習会 内容：NHK 音楽コンクール課題曲講習
8	2	火		第54回宮城県音楽教育研修会
	20	土		第89回NHK全国学校音楽コンクール 宮城県コンクール（名取市文化会館）
9	6	火	第2回幹事会（トークネットホール仙台）	
	15	木	第2回定例会（市教育センター） 14:30～（オンライン開催） 内容：「学習評価の実際」 講師：河合紳和 教科調査官 ※センターの音楽科研修と共催。	
	17	土		第89回NHK全国学校音楽コンクール 東北ブロックコンクール（名取市文化会館）
10	19	水	第74回仙台市中学校音楽発表会（奇数校） （仙台市民会館 大ホール）	
11	9	水		第70回東北音楽教育研究大会 岩手大会 （田園ホール）
	10	木	第3回定例会 内容：授業研究会 14:00～ 会場：愛宕中学校（高子育美先生）創作 上杉山中学校（工藤友美先生）器楽	
	7～	金	仙台市作曲コンクール（自校開催） ※実施は7日～11日の期間で	
	15	火	仙台市作曲コンクール審査会 14:30～ （市教育センター）	
	18	金		第57回宮城県音楽教育研究大会 石巻地区 大会（マルホンまきあーとテラス）
12	2	金		宮城県作曲コンクール本選会 （仙台市教育センター）
2	15	水		第74回作詞・作曲コンクール表彰式 （常盤木学園シュトラウスホール）
	22	水	第3回幹事会（トークネットホール仙台）	

音楽研究会

事務局 仙台市立第二中学校
電 話 234-6101

1 研究主題 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

2 役員組織

会 長 森 和子（仙台市立高森中学校校長）
副会長 吉田 知彦（仙台市立上杉山中学校校長）
岩倉 一治（仙台市立南中山中学校校長）
小野寺 淳（仙台市立中田中学校教頭）
参 与 寺田 潤（仙台市教育局次長）
日下 尚子（仙台市教育局教育人事部教育センター主任指導主事）
幹事長 高橋和歌子（仙台市立第二中学校教諭）

3 今年度の研究活動の経過

◆令和4年5月2日（月） 第1回幹事会（トークネットホール仙台）

- （1）令和4年度の事業、予算について
- （2）定例会の持ち方について

◆令和4年5月12日（木） 第1回定例会（旭ヶ丘市民センター）

- （1）令和3年度事業報告と決算報告
- （2）令和4年度事業計画と予算案
- （3）令和4年度音楽部会組織の改編

◆8月20日（土）

第89回NHK全国学校音楽コンクール宮城県コンクール（名取市文化会館）

- <金賞> 第一中 長町中
- <銅賞> 将監中 八軒中

◆9月6日（火） 第2回幹事会（トークネットホール仙台）

- （1）第2回・第3回定例会・研修会について
- （2）各部から事業の進捗状況報告
- （3）研 修 「次年度の研究会が目指すもの」

◆9月15日（木） 第2回定例会・研修会（仙台市教育センター／オンライン研修）

「学習評価の実際」

講師 河合紳和先生（教育課程調査官）

◆9月16日(金)

第74回宮城県小・中・高等学校児童・生徒作詞・作曲コンクール

作詞の部審査会(トークネットホール仙台)

<特選> 第二中 1名 上杉山中 1名

<優秀> 中山中 3名 聖ウルスラ学院英智中 1名(2点)

高砂中 1名 鶴が丘中 1名

<入選> 五橋中 2名 鶴が丘中 2名 高砂中 1名

中山中 1名 聖ウルスラ学院英智中 1名

◆9月17日(土)

第89回NHK全国学校音楽コンクール東北ブロックコンクール(名取市文化会館)

<銀賞>第一中 <奨励賞> 長町中

◆10月19日(水)

第74回仙台市中学校音楽発表会(トークネットホール仙台大ホール) 中止

参加対象校:学校番号奇数校

◆11月7日(月)~11日(金) 第74回仙台市中学校作曲コンクール

<会場> 各校にて自校開催

参加校:10校 参加者:31名 作品数:42点

◆11月10日(木) 第3回定例会・研修会

<授業研究>

領域	授業者	題材	助言者
創作	高子 育美 教諭 愛宕中学校	構成と旋律を生かし、まとまりのある楽曲を作ろう	小野寺 淳 教頭 中田中学校
器楽	工藤 友美 教諭 上杉山中学校	ギターに親しもう ~フォークギターで歌おう~	岩倉 一治 校長 南中山中学校

◆11月15日(火) 第74回仙台市中学校作曲コンクール審査会(仙台市教育センター)

<入選> 上杉山中 1名 仙台白百合学園中 1名 秀光中 1名

◆12月2日(金)

第74回宮城県小・中・高等学校児童・生徒作詞・作曲コンクール作曲の部本選会

(仙台市教育センター)

<仙台市教育委員会教育長賞> 仙台白百合学園中 1名

<宮城県連合中学校教育研究会音楽部会長賞> 仙台白百合学園中 1名

<入賞> 上杉山中 1名 秀光中 1名

◆令和5年2月15日(水)

第74回宮城県小・中・高等学校児童・生徒作詞・作曲コンクール表彰式

(常盤木学園高等学校シュトラウスホール)

◆2月22日(水) 第3回幹事会(トークネットホール仙台)

(1) 令和4年度事業報告, 決算報告について

(2) 令和5年度事業計画, 予算案について

令和4年度 仙台市中学校教育研究会音楽研究会

第1回 定例会・研修会要項

令和4年5月12日（木）15:00～

旭ヶ丘市民センター 大ホール

- 1 開会のあいさつ （吉田 知彦校長先生）
- 2 自己紹介
- 3 報告と協議
 - （1）令和3年度事業報告
 - （2）令和3年度会計決算報告及び監査報告
 - （3）令和4年度事業計画案
 - （4）令和4年度予算案
 - （5）令和4年度市中音研組織
 - （6）研究部より
 - （7）作曲コンクールについて
 - （8）ホームページについて
 - （9）その他
- 4 研 修
 - （1）ICTを活用した授業づくりについて
 - （2）研究主題「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり」について
各部会での討議
- 5 事務連絡
- 6 閉会のあいさつ

第2回定例会要項

令和4年9月15日(木) 14:30~

仙台市教育センター(オンライン)

《次第》

- 1 開会
- 2 音楽科研修会(教育センターと共催)
「学習評価の実際」 講師：河合 紳和 教育課程調査官
- 3 事務連絡

(1) 調査研究部から

●第3回定例会について

期日：令和4年11月10日(木) 創作(愛宕中) 14:20~16:35

器楽(上杉山中) 14:00~16:35

内容：研究授業

	授業者	チーフ	題材名と参観者
創作	高子 育美教諭 (愛宕中学校)	鈴木 静香教諭 (桜丘中学校)	構成と曲想を生かし、まとまりを感じられる楽曲を作ろう
			創作部会の先生方(他部会は振り分け)
器楽	工藤 友美教諭 (上杉山中学校)	本間まり子教諭 (中山中学校)	ギターに親しもう(仮)
			器楽部会の先生方(他部会は振り分け)

※別添資料参照

※参観者(歌唱・鑑賞部会の先生方)は、後日、希望を取ります。

(2) 仙台市中学校音楽発表会について

今年度も中止

(3) 作曲コンクールについて

期日：11月7日(月)~11日(金)

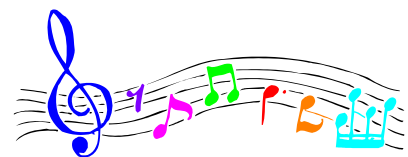
会場：自校開催

参加申し込み：10月14日(金) 蒲町中・及川慶太先生まで

※詳細については、8月8日付け文書を御確認ください。

(4) その他

4 閉会



資料は別紙の通り。

第3回 定例会要項

令和4年11月10日(木)

《次第》

- 1 受付 愛宕中 14:00～ 上杉山中 13:40～
 2 研究授業 愛宕中 14:20～ 上杉山中 14:00～

領域	会場	授業者	題材	助言者
創作	愛宕中学校	高子 育美教諭	構成と旋律を生かし、まとまりのある楽曲を作ろう	小野寺 淳教頭 (中田中学校)
器楽	上杉山中学校	工藤 友美教諭	ギターに親しもう ～フォークギターで歌おう～	岩倉 一治校長 (南中山中学校)

3 開会の挨拶

4 研究討議

- ① 授業者自評
- ② 話し合い
 ワークショップ型 (クロームブック (ジャムボード) 活用)
 クラスコード ohrzro3 (5月実施のアンケートで使用したもの)
- ③ 全体協議
- ④ 指導助言 等

5 事務連絡

(1) 仙台市中学校音楽発表会について

令和5年度実施の可否について現在検討中 (今年度は中止)

期日: 令和5年10月18日(水)

会場: トークネットホール仙台 大ホール (仙台市民会館)

参加校: 学校番号奇数校

(2) 作曲コンクールについて

期日: ~11日(金) 自校開催

11月15日(火) 作曲コンクール審査会 (市教育センター)

(3) その他

6 閉会 (~16:35)



令和4年度 仙台市中学校教育研究会 音楽研究会 研究主題

(1) 研究主題について

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

この主題は新学習指導要領移行期間の令和元年度より実施している(令和2年度は個人のみ)。令和3年度の学習指導要領完全実施を受けて、令和3年度から5年度までを、この研究主題で継続する。

○今後の授業研究・領域、研究主題

令和3年度：歌唱・鑑賞(昨年度実施済)

令和4年度：器楽・創作

(器楽：上杉山中 工藤 友美教諭，創作：愛宕中 高子 育美教諭)

令和5年度：領域や視点について再度検討を行う可能性あり。

令和6～8年度：東北大会(令和8年度)を見据えた研究主題と視点を設定する。

(2) 研究の内容と方法

○研究の内容(視点)

研究主題に迫るために、以下の共通の視点に基づいて研究を進める。

視点1 「主体的な学び」の視点からの授業改善

視点2 「対話的な学び」の視点からの授業改善

視点3 「深い学び」の視点からの授業改善

その際、例えば以下の視点について、具体的に設定をする。

視点1：主体的に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面を設定する。

視点2：対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面を設定する。

視点3：生徒が「音楽的な見方・考え方」を働かせて学びの深まりをつくり出すために、生徒が考える場面と教師が教える場面を設定する。

○研究の方法

共同研究と個人研究の2つの柱で研究を進める。

個人研究は、三つの視点からの授業改善の記録を令和4年度末にレポートにまとめて報告する。領域は、所属する部会の領域を主とするが、現在の情勢を鑑み、研究の内容に迫ることができた授業実践でよいものとする。

三つの視点については、単元(題材)全体の学習を通して実現されるものである。よって、1時間の授業では、研究の内容に迫ることができた視点(一つ以上)を入れた指導過程でよいものとする。

尚、今年度からICT機器の活用を取り入れた授業改善を、積極的に取り入れて研究を進めることを目指す。ICT機器とは音楽の授業におけるchromebookやタブレットの機能や、音楽アプリの活用を指す。ICT機器の活用に際しては、三つの視点に基づいた授業改善に効果的なものであるかを吟味して、取り入れることとする。その後、研究授業や研究紀要でICTの活用の実践例を紹介し、研鑽を積む。

共同研究は、第3回定例会において授業研究を行う。研究授業は器楽領域と創作領域での授業提案を行う。当該領域に所属するメンバーを中心に指導案の検討等を行い、研修を深める。また、今年度授業を提供しない領域、分野のメンバーは、第3回定例会時に授業を参観し、授業検討会に参加することで研修を深めていく。

尚、今年度も新型コロナウイルス感染症の状況によっては、変更等も考えられる。

< 研究部より今年度に実施したい内容 >

- ① 音楽の授業における ICT 機器活用状況調査(アンケート)の実施
- ② アンケート結果の共有と活用方法の紹介
- ③ アンケート結果を生かした授業研究の実践

①について

- ・第1回定例会にて状況調査を行うことを周知する(chromebook の Forms にて実施。下記参照)。
- ・第2回定例会までにアンケートの集計をする(研究部で実施)。
(授業者の先生方には、集計結果を早めにお伝えし、授業実践の方向性に加えていただく)

②について

- ・第2回定例会資料で、アンケート集計結果のお知らせをする。
- ・今後、定例会等で ICT 機器の活用について具体例を紹介する(本日、創作の事例を紹介予定)。

③について

- ・指導案検討会で、部会の先生方に ICT 機器の活用を含めた実践を提案し、共有を図る。
- ・第3回授業研究会で授業実践を行う。

R4 仙中音研アンケート

仙台市中学校音楽研究会 ICT機器使用状況アンケート(調査研究部)
先生方の御意見をお伺いし、今後の研修や授業研究等に役立てたいと思います。よろしく
お願いします。

*必須

1. 中学校名と氏名を入れて下さい。 *

2. これまでの音楽の授業で、ICT機器(chromebook, ipad)を活用しましたか。 *

1つだけマークしてください。

- A はい(教員のみ活用) → 3に進んで下さい
 B はい(教員と生徒が活用) → 5に進んで下さい
 C いいえ → 7に進んで下さい

3. 3で「A はい(教師のみ活用)」と答えた先生のみ回答して下さい。授業でどの
ように活用しましたか(複数回答可)。

当てはまるものをすべて選択してください。

- A 静止画や動画の撮影(生徒の演奏の様子, 作品等)
 B 合唱曲や鑑賞曲の音源の取り込み
 C 資料の提示(スライド・パワーポイント等)
 D デジタル教科書の投影
 E その他(チェック後、次の質問に答えて下さい)

4. 3で「E その他」を選択した先生に質問です。どのような活用をしたのかを詳
しく記述して下さい。

5. 2で「B はい(教員と生徒が活用)」と答えた人に質問です。どのように活用しましたか。選択肢から選んでください(複数可)。

当てはまるものをすべて選択してください。

- A 静止画や動画の撮影(演奏の様子を撮影し合う等)
- B 音源の活用(合唱練習や曲の鑑賞)
- C 話し合い活動(Jamboardやロイロノート等の活用)
- D アンケートやテストの実施(formやロイロノートの活用)
- E その他(チェック後、次の質問に答えて下さい)

6. 5でA～Eを選択したすべての先生に質問です。効果的な活用ができた学習について、詳しく記述して下さい(題材名、使用場面、活用方法等)。

.....

7. 今後、ICT機器の機能でどのようなことを知りたいですか、できるようになりたいですか(複数回答可)。

当てはまるものをすべて選択してください。

- A 音源(合唱曲や鑑賞曲)をchromebookやipadに取り込む方法
- B classroomの設定方法や活用方法
- C jamboardやロイロノートの設定方法や活用方法
- D スライドやパワーポイントの作成方法
- E その他(チェック後、次の質問に答えて下さい)

8. ⑧ ⑦で「E その他」を選択した先生に質問です。どのようなことが知りたいのか、できるようになりたいのかを詳しく記述して下さい。

.....

音楽研究会		研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり				
学校名				授業者				
題材名								
I 授業の構想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 三つの柱に基づいて、すべて記入してください。			【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】			
	研究の視点	視点1						
		視点2	題材の目標を達成するための、三つの視点を記入してください。			本時で扱う視点に○をします。(一つ以上)		
視点3								
本時ねらいと視点	日時	令和	年	月	日 ()	指導学級	年 組	
	ねらい	題材の目標に基づいたねらいを記入してください。				視点	1・2・3	
II 指導過程	学習活動			指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】				
	導入							
	展開				本時のねらいを達成するために、視点を <ul style="list-style-type: none"> ・どのような場面で ・どのような学習活動で ・どのような問いかけで 実践したのかを分かりやすく記入してください。			
	終結				ICT 機器を活用した場合は、学習活動の場面を太枠で囲い、活用方法について具体的に記入をして下さい。			

<成果と課題>

本時のねらいと視点の関わりを振り返り、成果と課題を記入してください。

<調査研究部より連絡>

(1) 第3回 定例会・授業研究について

- ① 日時：11月10日(木) ※部会ごと開始時間等に違いがありますので、御注意ください。

愛宕中（創作）	時 程	上杉山中（器楽）
14:00～14:20	受 付	13:40～14:00
14:20～15:10	授 業	14:00～14:50
15:10～15:20	休憩・移動	14:50～15:00
15:20～15:25	全体会（授業者自評・検討会の流れ説明）	15:00～15:05
15:25～15:50	グループに分かれての検討会 各自 chromebook 持参。Jamboard を使用。	15:05～15:40
15:50～16:15	グループ発表（成果と課題） 課題における改善策の協議	15:40～16:10
16:15～16:25	指導助言	16:10～16:20
16:25～16:35	閉会、片付け	16:20～16:35

- ② 担当，検討会など

	創 作	器 楽
授業者	高子 育美 教諭	工藤 友美 教諭
会場	愛宕中学校	上杉山中学校
指導助言	小野寺 淳 教頭(中田中)	岩倉 一治 校長(南中山中)
チーフ(司会)	鈴木 静香 教諭(桜丘中)	本間 まり子 教諭(中山中)
会場責任者(他チーフ)	木下 真理子 教諭(青陵中)	佐々木 香奈 教諭(南中山中)
指導案検討会	10月19日(水) 15:30～16:45 教育センター 第2・3研修室	10月21日(金) 15:30～16:45 教育センター 第2・3研修室

※ 指導案検討会は、各部会(創作，器楽)に所属する先生方に出席していただきます。事前に派遣文書をお送りします。

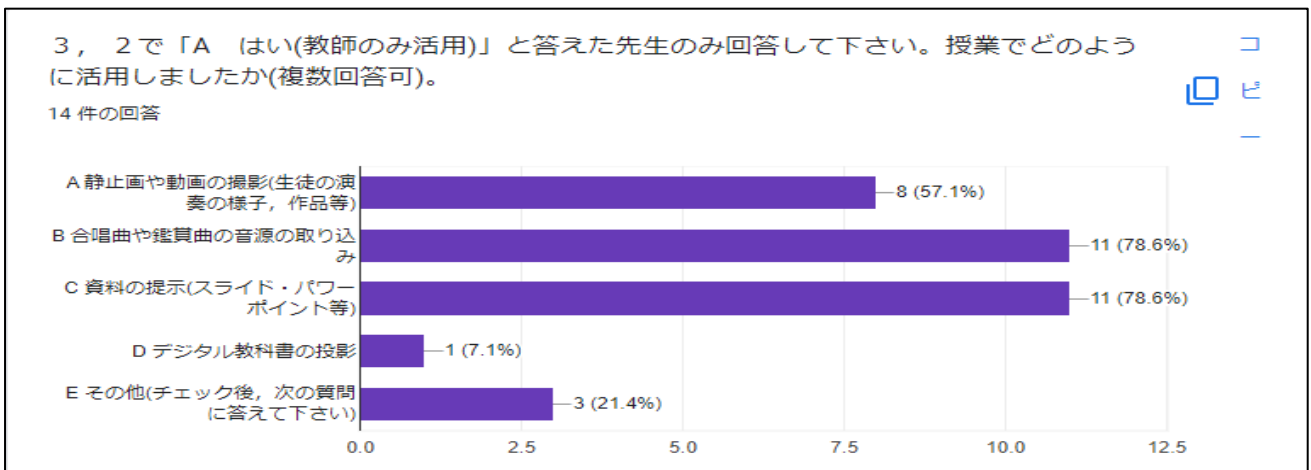
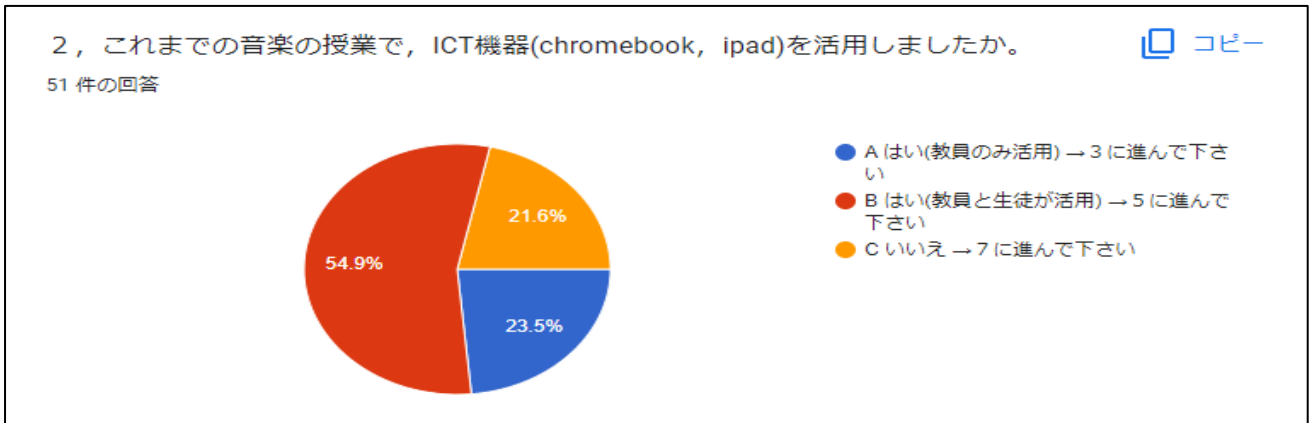
※ 歌唱，鑑賞部会に所属する先生方は、希望をもとに事務局で割り振りをし、授業参観校を決定いたします。

(2) 個人研究のまとめについて（詳細は第1回定例会資料を御覧下さい）

- ① 研究主題 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり
- ② 研究の内容と方法
 - ・ 三つの視点(「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」)からの授業改善の研究を行う。
 - ・ 研究の内容に迫ることができた視点(一つ以上)を入れた指導過程とする。
 - ・ ICT機器の活用を取り入れた授業改善を、積極的に取り入れて研究を進める。
- ③ 提出様式 A4片面 専用枠(別ファイルで送信)
- ④ 提出期間 令和4年12月末～令和5年1月末

(3) アンケート結果について

第1回の定例会で先生方をお願いした「仙中音研アンケート」の結果をお伝えします。
この結果を、第3回授業研究の学習内容の選定に役立てたいと思います。



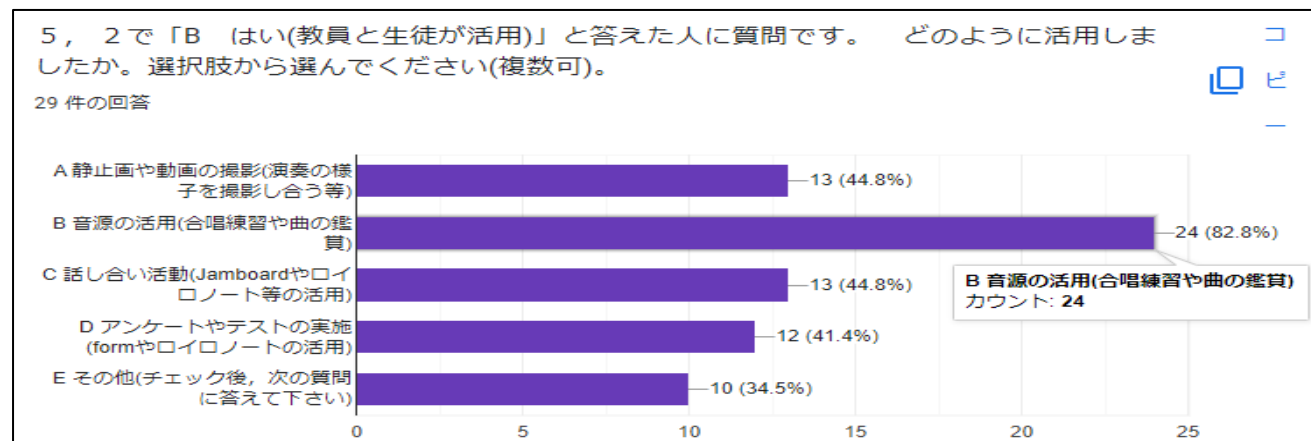
4, 3で「E その他」を選択した先生に質問です。どのような活用をしたのかを詳しく記述して下さい。

3件の回答

YouTube等で参考音源（映像）を流して見せた。

バーチャルピアノというものを活用した。（鍵盤が出てきて、画面を直接タッチしたり、キーボードが鍵盤と連動しており、実際に音を鳴らすことができる）

鑑賞の感想をjamboardで共有



6, 5でA~Eを選択したすべての先生に質問です。効果的な活用ができた学習について、詳しく記述して下さい(題材名, 使用場面, 活用方法等)。

26件の回答

生徒の実態を知るアンケートを実施し、集計が自動でできる。

今まで1人1人小テストを行っていましたが、実技テストを動画で取らせて評価につなげました。

サンタルチア アクセントが見ている人にわかるように表現する。 自分の歌う姿を確認する。。

卒業合唱の練習期間に感染防止のために合唱ができなくなってしまったので、その期間にクロムブックの音源を聞いてハミングする練習などを行った。

創作の時間に、クロムブックでバーチャルピアノのページを共有して活用しました。鍵盤で演奏できるのがベストですが、キーボードで打って音を並べることができるので、弾けなくても自分の作った音を演奏できる生徒が増えて、少しよかったです。

鑑賞の授業で、感じたことやイメージ、調べたことをジャムボードで共有するのはとても良かったです。簡単に、同時に互いの意見を見ることができました。

個人毎に何度も聴き直すことができたこと。

鑑賞の授業において、ジャムボードで意見を共有できました。

調べ学習に活用（「荒城の月」について調べ、さまざまなアレンジに触れる）

調べ学習（ベートーヴェン）や自分で選んだ楽曲を鑑賞する（個人で持参のイヤホンを使用）

・合唱：音源の活用。また、振り返りシートをスプレッドシートで実施。 ・世界の諸民族の音楽（鑑賞）：楽器の音色の特徴や素材の特徴などをジャムボードで共有。 ・歌舞伎：事前調査でアンケートを実施。調べ学習で班ごとにスライドを作成。

作曲（創作）活動

鑑賞で使用しましたが、聴きたい部分のみをじっくりと何度も繰り返し聴くことができたり、自分で曲を選んで鑑賞させたい題材に関しては、非常に効果的でした。

鑑賞教材での音源活用、クラスルームでの意見共有

A 指揮をする活動をしたときに、動画機能を活用した。自分の表現の様子を客観的に評価・分析し、より良い表現活動へつなげることができた。

とりあえず使ってみて課題を確認した段階です。

パワーポイントを画面共有し、詳細な画像を見せた。

効果的な活用が出来ている感じはまだあまりありません。授業前のアンケートに使用したことと、デジタル教科書の使用くらいです。

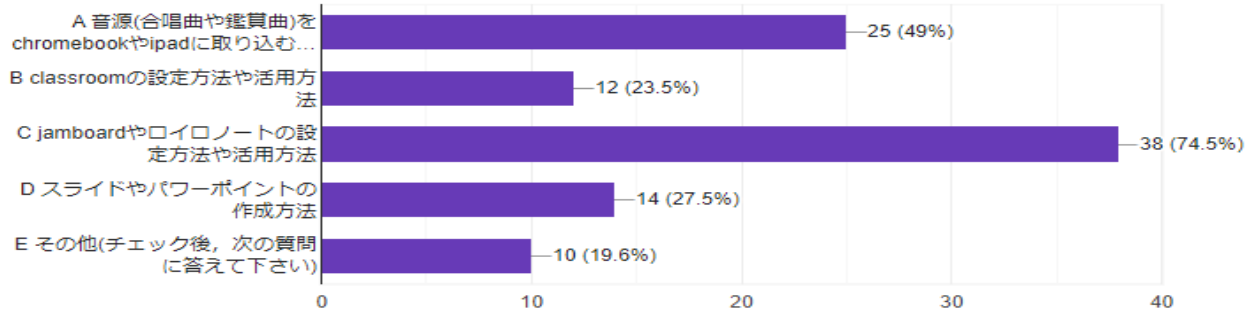
創作活動で旋律を作る際にバーチャルピアノというサイトを使用し、キーボード代わりにChromebookで音を鳴らしながら創作した。

Let's Create!, 作品の創作と演奏, Google Music Lab 合唱コンクール, パート練習（自主練習）, Classroom内にパート別音源を資料として提示

「曲の良さをプレゼンしよう」で、クロームブックに音源を取り込んでなんでも聴けるようにしたり、クラスルームにワークシートを貼って、そこに発表内容を入力させ、発表の際にテレビにその画面を映し出して全体で共有することができました。各班ごとに、生徒が入力した内容を手元で確認し誤字を訂正したり、進捗状況を確認することもでき便利でした。

7, 今後, ICT機器の機能でどのようなことを知りたいですか, できるようになりたいですか(複数回答可)。

51 件の回答



8, 7で「E その他」を選択した先生に質問です。どのようなことが知りたいのか, できるようになりたいのかを詳しく記述して下さい。

11 件の回答

chromebookで使用できる音楽アプリについて紹介してほしい

一通り,ICT機器の機能は活用はできます。

jamboardは使えるので, ロイロノートと創作で使用するアプリの活用ができるようになりたいです。音源の取り込みは合唱コンクールまでに覚えようとしています。

どんな活用法があるのかを知りたい

作曲(創作)などの音楽ソフトの活用について

A~Dは既に使用しているので, できるようになりたいことも知りたいこともない。

創作活動での活用方法を知りたい。

話し合い活動や, 課題提出・管理等だけでなく, 音楽活動の充実に直接関わるような使い方の可能性について。(具体例がなかなか出てこないのですが...)

先生方がどのようにICT機器を活用されているか

学校のPCでも無料で使用できる五線譜に記譜できるソフトと, 記譜したものを生徒に提示する手段。(文章や簡単な図はワードやエクセルで作成したりできるが, そこに楽譜を一緒に載せたい時に, いつもそこだけ手書きになってしまい不便さを感じたため)

授業での活用方法

<音楽アプリについて>

令和4年8月2日の宮城県音楽教育研修会「音楽科 ICT ワクワク活用講座（小梨 貴弘先生）」で紹介された内容について、御紹介します。講師：小梨 貴弘先生の下記 HP を御活用ください。

「明日の音楽室」で検索 http://www.ashitano-ongakushitsu.com

音楽科 学習指導案

令和 4年11月10日(木) 5校時
場所 仙台市立愛宕中学校 音楽室
指導学級 3年 1組 32名
指導者 教諭 高子 育美

1 題材名 「イメージをもち、まとまりのある曲をつくろう」

2 題材の目標

- (1) 創作の活動を通して、旋律、テクスチャ、構成について理解するとともに、イメージしたことと関係付けて創作表現するために必要な、音の選択や組み合わせなどの技能を身に付ける。 【知識・技能】
- (2) 旋律、テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、創作表現を創意工夫する。 【思考力、判断力、表現力】
- (3) ICT機器を活用し、議論しながら試行錯誤して旋律を創作する活動に関心をもち、工夫しながら旋律を変化させることを通して、主体的・協働的に創作の学習に取り組む。 【学びに向かう力、人間性等】

○ 本題材における学習指導要領との関連

指導事項 第2学年及び第3学年 A表現(3)創作 ア、イ(イ)、ウ
〔共通事項〕(1)音楽を形づくっている要素：「旋律」「テクスチャ」「構成」

3 題材について

(1) 題材観

今回の学習では、まとまりのある創作表現を創意工夫するために、旋律の音選びなどを工夫して自分がイメージしたことを表現しながら、旋律、テクスチャ、構成を関係付けて創作をすることをねらいとしている。

そのためにまず、既習曲の旋律の工夫を知覚し、その特徴から生まれる雰囲気を感じ取る。これにより、生徒自身がイメージする曲に必要な旋律の工夫とは何かを知る手掛かりになると考えられる。また、身近な「ファミリーマートの入店チャイム」の旋律の特徴を生かしながら創作の手掛かりを得る機会を設ける。

次に、記譜が変わって音楽作成ソフト「Chrome Music Lab」の『Song Maker』を活用する。これにより、旋律のまとまりや音の重なりを知覚したり、生徒がイメージしたことで旋律の工夫との関係を感じたりすることができるようになると考えられる。さらに、自己の振り返りやグループ活動の中で議論を行う場面でロイノートを活用する。自他の曲や意見を共有することで、改善点に気づき、よりイメージに近づく曲に仕上げることができると考えられる。

これらの学習の積み重ねによって創作活動に親しみ、議論を通してよりよい創作活動ができると考え本題材を設定した。

(2) 生徒観

本学級の生徒は小学4年次より単学級で、進学してきた本校においても1小1中とメンバーは殆ど変わらない。そのため、よく言えばお互いをよく知っているため大きな諍いもなく表現活動はそれなりに自由に取り組むことができる。しかし、お互いを知りすぎていて競争心や向上心が希薄な面も見られる。そのため、課題に取り組む前から「できない」やほかの生徒と比較して、自分はいまうまいかと言った意識を持つ生徒や初めての課題に対して抵抗感を持つ傾向がある生徒もいるように感じる。

以下は1年生と2年生の時の創作（作曲）に関する意識調査結果の一部である。

- コードからイメージを膨らませて旋律を作ろう（R2年度）回答対象 29 名
 - ・ 作曲は難しそう（創作の授業前） はい 28 人 いいえ 2 人 わからない（欠席者含む） 9 人
 - ・ コードに旋律をつけてみてどうでしたか（創作の授業後。複数回答可。）
楽しかった 18 人 難しかった 26 人 もっとやってみたい 21 人
- Chrome Music Lab（以下 CML）を使って歌曲を作ろう（R3年度）回答対象 31 名 回答者 27 名
 - ・ CMLの操作はどうでしたか かんたん 16 人 ふつう 8 人 難しい 3 人
 - ・ CMLは楽しかったですか とても楽しかった 23 人 楽しかった 3 人 つまらなかった 1 人
 - ・ CMLをもっとやってみたいですか はい 26 人 いいえ 1 人

小学校では旋律の創作活動を経験しなかったため、アンケートの結果でも取り組む前は「難しそう」という意識が1年次は高かった。実際に取り組むと半数以上の生徒が「楽しかった」と回答するものの、「楽しかった」と感じる生徒も多かった。しかし、2年次にChrome Music Labを使用すると「難しい」という意識が減り、「もっとやってみたい」という意識が高まっていることが分かる。また、授業の中で教え合う様子や聞き合う場面があり、歌唱で活躍し難い生徒や鑑賞などの時になかなか発言できない生徒も楽しそうに輪の中に入り発言していた。

これらの実態を踏まえ、本題材では題材目標であげた3点とともに、「自分の可能性に挑戦する態度」（主体的な学び）や「他者の作品を批評することや他者からの評価からより良いものを作ろうとする姿勢」（協働的な学び）を伸ばすことも目指したい。

(3) 指導観

本題材の目標を達成するために、以下のような手立てを指導の過程で行う。

- ① 旋律の「続く感じ（半終止感を出すために第5音で旋律を終える）」と「終わる感じ（完全終止感を出すために主音で旋律を終える。）」を身に付けるために既習曲の分析や身近な曲を例にして学習する場面を設ける。
- ② 「Chrome Music Lab」の『Song Maker』を活用して、まとまりのある曲をつくるために、以下の条件を明示する。
 - ・ C-dur, 4分の4拍子, 8小節の曲を創作すること。
 - ・ 奇数小節は「続く感じ」、偶数小節は「終わる感じ」の旋律にすること。
 - ・ 1, 2小節と7, 8小節は同じ旋律を用いること。
 - ・ 3, 4小節は1, 2小節を変化させた旋律にすること。
 - ・ 5, 6小節は他の小節の旋律とは違う工夫を取り入れること（音を重ねることも可）。
- ③ 音楽経験のある生徒を含めた5人程度のグループを作り、自他の曲を聴き合ったり、批評し合ったりする場面を設定する。その際、ロイロノートを活用して共有を行う。

4 教材について

- 「Chrome Music Lab 内『Song Maker』」

この音楽アプリは、パソコンや iPad, クロームブックなどの端末で14の音楽体験ができるツールである。中でも『Song Maker』は音階が色別で示されており、記譜が苦手な生徒でも入力が容易である。また、作った曲をすぐに再生、修正できることで、旋律の工夫がしやすく、よりまとまりのある曲をつくることが可能となる。

- 「ロイロノート・スクール」

ロイロノート・スクールはChromebook や iPad などを使う際、生徒の主体性をのばす授業を作るためのツールである。先生と生徒のやり取りや生徒間でのやりとりを活発化させることで、「思考力」「判断力」「表現力」を育てることを目標としている。

今回は生徒間通信を開放し、作品の感想や評価をカードで相手に送る。他者からの評価を何度も振り返り、よりよい創作表現を創意工夫することが可能となる。また、シンキングツール（ワークシートにあたる）やカードで、自分のポートフォリオをつくることで、振り返りが可能となる。

5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 旋律やテクスチャ、構成の特徴について表したいイメージと関わらせて理解している。</p> <p>技 創意工夫を生かした表現で音楽を作るために必要な課題や条件に沿った音の選択、それらの組み合わせなどの技能を身に付けている。</p>	<p>思 旋律やテクスチャ、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのような音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>態 ICT機器を活用し、議論しながら試行錯誤して旋律を創作する活動に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習に取り組もうとしている。</p>

6 指導と評価の計画（本時 / 時間）

時間	◎ ねらい ○ 学習内容 ・ 学習活動	知・技	思	態
1	◎ 様々な終止を知り、活用させる（半終止・全終止）	<p>知 ① 観察・※1 TT</p>		
	<p>○ 『入店チャイム No. 1 作品 1 7大盛況（ファミマ入店チャイム）』を使って主題を変形させよう！ （別紙参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習曲「花」や「主人は冷たい土の中」の旋律の持つ終止感を聴く。 ファミマ入店チャイムの旋律の半終止と全終止を感じ取る。 2小節分は原曲を入力。3小節目は第5音、4小節目は主音で終了させる規定の下、ファミマの入店チャイムの旋律を変化させて曲を拡大させる。 級友から意見をもらい、自分の旋律を見直して修正する。 シンキングツール（※1 TT）に振り返りを入力する。 			
2	◎ テーマに沿った曲を作るために主題と旋律の関係を知り、考えさせる。 （奇想曲風）	<p>技 ② 観察・※2 (CML)</p>	<p>思 ・観察・TT</p>	
	<p>○ 『入店チャイム No. 1 作品 1 7大盛況（ファミマ入店音）』を使って曲の規模を拡大させよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> 前回の作品の続く、5、6小節目を違った性格で作る。その際、どのような場面を表すのかを決めてから曲づくりを行う。 グループに分かれ、作品を発表し、解説する。 グループで得た意見から再考し、旋律を直す。 今日の振り返りを TT に記入する。 			

3	◎ イメージを曲にしよう① 旋律を変化させ、まとまりのある作品を作る				態 ・ 観 察 ・ TT
	○ イメージを旋律にし、その旋律を変化させることで、まとまりのある作品をつくる。 ・ どんな内容を曲で表すか、それをどのようにして旋律に表すか、考えをTTに記入する。 ・ TTの内容をもとに1小節（続く感じ。以下続）、2小節（終わる感じ。以下終）を作る。それをもとに旋律を変化させ3（続）、4（終）小節を作る。 ・ 自分のタイトルや曲の内容を説明し、作品を級友に聴いてもらう。（その後、作品についての感想をもらう。） ・ 級友からももらった意見を参考に旋律の再考を行う。				
4 本時	◎ イメージを曲にしよう② 旋律を変化させ、まとまりのある作品を作る				知 ・ 観 察 ・ TT
	○ イメージを旋律にし、その旋律を変化させることで、まとまりのある作品をつくる。 ・ 前時の内容を振り返る。 ・ 全く違った性格の5（続）、6（終）小節を考える。 ・ 最後に1、2小節目と同じ内容を7、8小節目に入力する。1曲を通して聴き、イメージが表現できていたかを確認する。 ・ グループで作品を発表し合う。 ・ グループから代表者を決めて、全体で共有する。 ・ 代表者にロイロノートグループから代表者を決めて、全体で共有する。 ・ 代表者にロイロ・ノートのカードを利用して感想を送る。 ・ 自分の振り返りを行い、TTに入力する。				
5	◎ 自分の作品を発表し解説させる。				品 技 ・ 作
	・ 前回の振り返り。 ・ 作品の再構成、解説確認をする。 ・ 作品を全体で発表し、解説する。				

※1 TT…ロイロノートのシンキングツール（ワークシートにあたる）

※2 CML…Chrome Music Lab

7 研究主題との関連

(1) 令和4年度 仙台市教育研究会 音楽研究会 研究主題

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

(2) 研究の視点と手立て

視点1 「主体的な学び」の実現に向けての工夫

＜手立て＞ 本題材における目標や規定を具体的に且つ明確に提示し、生徒が学習の中でどのようなことを指標とし創作活動を進めるか考えられるようにする。また、ロイロノートを使用し、過去の取組やアドバイスを振り返り、自己の変容を見取る場面を設定する。

視点2 「対話的な学び」の実現に向けての工夫

＜手立て＞ 学び合いや話し合いが深化するように、ロイロノートのカードを使用し、級友からの感想やアドバイスが多く伝わるようにする。また、グループ討議の中でカードの内容を取り上げ、議題にするなど、深く考える場面を設定する。

視点3 「深い学び」の実現に向けての工夫

＜手立て＞ 話し合いが展開しやすいように、意図的に5人程度のグループを設定する。自分の考えを述べる場面、作品を聴く場面、作品を批評する場面を設ける。他者の意見をもとに深く考え、作品に生かせるようにする場面を設定する。

8 本時の学習指導

(1) 本時の目標

イメージを曲にしよう② 旋律を変化させ、まとまりのある作品を作ろう

(2) 指導に当たって

視点2 学び合いや話し合いが深化するように、ロイロノートのカードを使用し、級友からの感想やアドバイスが多く伝わるようにする。

視点3 話し合いが展開しやすいように、意図的に5人程度のグループを設定する。自分の考えを述べる場面、作品を聴く場面、作品を批評する場面を設け、他者の意見をもとに深く考え、作品に生かせるようにする。

(3) 学習活動の展開と評価(学習指導過程)

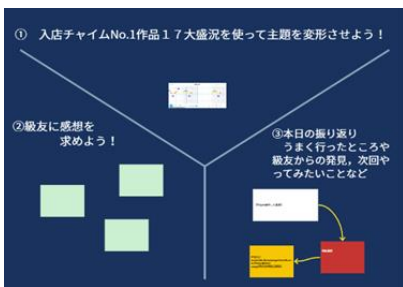
○ 主な学習活動・予想される生徒の反応	◇ 指導者の関わり ♪ 評価 [方法]
<p>○ 前時の確認をし、本時の学習目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> イメージを曲にしよう 旋律を変化させ、まとまりのある作品をつくろう </div>	<p>◇ ロイロノートのシンキングツールから作品を呼び出し、前時の活動を把握させる。</p> <p>◇ 1・2小節目とは違った性格はどんなものがあるのかを考えさせる。</p>
<p>○ 5・6小節目をどのような内容にするか、ロイロノートのカードに記入する。</p>	<p>◇ 今までの旋律はどんな仕組みかを振り返ると違った性格の旋律を考えやすいことを伝える。</p> <p>♪ 知 [観察・シンキングツール (カード)]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto;"> <p>【Aと判断される姿】 今までの旋律と5・6小節目の性格や仕組みを対比し、工夫した点を具体的に発言または入力している。</p> <p>【Cへの手立て】 今までの旋律の特徴を考えさせ、それと違った特徴はどんなものか具体的に考えさせる。</p> </div>
<p>○ 個人で5・6小節目の創作に取り組む。</p>	<p>◇ 主旋律を作ってから、重音にしたりベースを付</p>

<ul style="list-style-type: none"> • 旋律を様々に試みて作っている。 • 何度も聴き旋律を変化させている。 • 旋律の音選びに迷う。 • イメージ通りの旋律にするアイデアが浮かかない。 <p>○ 1曲を通して聴き,自分のイメージが表現できているかを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 大方イメージ通りで満足する。 • 少々迷うところはあるが大体満足している。 • 時間が足りなくてももう少し直したい。 • とにかく旋律だけはつくった。 <p>○ グループで作品を発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 解説と作品の関係に十分な説明ができる。 • 雰囲気はつかんでいるが,上手く説明できない。 • 音楽的な要素を用いて説明ができない。 <p>○ 聴く側の生徒はロイロノートのカードに,意見や感想を録音する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自分の考えを相手に伝える。 • 発表側から聴く側の感想に質問ができる。 • 自分の考えを上手く伝えられない。 <p>○ グループから代表者を選出し,全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 聴きたい作品の題名に手を挙げる。 • 解説された内容を考えながら聴く。 • 旋律がどのように変化するか注意して聴く。 	<p>けたりするように指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 主旋律ができたならイメージに近付くように様々な方法を試し,結果をカードにメモして残すように指示する。 ◇ 作業が止まってしまった生徒には個別の支援を行う。 <p>◇ 曲のまとまりが旋律の変化によって感じられるかを問い,目標を再認識させる。</p> <p>◇ イメージを表現するための工夫はできるだけ具体的に説明し,相手に注目してもらえるようにするように伝える。</p> <div data-bbox="850 810 1390 1131" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>視点3 話し合いが展開しやすいように,意図的に5人程度のグループを設定する。自分の考えを述べる場面,作品を聴く場面,作品を批評する場面を設け,他者の意見をもとに深く考え,作品に生かせるようにする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 説明に支援が必要な生徒については近くで単語をすくい上げて補足する。 <p>◇ 自分以外の意見から新たな気づきがうまれる大きな要素になるため,質問して深めることも有効だと提案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 感想ややりとりを何度も振り返れるようにロイロノートのカードに録音しながら話し合いを進めるように指示する。 <div data-bbox="865 1585 1374 1816" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>視点2 学び合いや話し合いが深化するように,ロイロノートのカードを使用し,級友からの感想やアドバイスが多く伝わるようにする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 説明と作品が分かりやすく表現されている作品や全体に聞いてもらいたい作品を選ぶように提案する。 ◇ 代表者のタイトルから,どれを聴いてみたいか
--	--

<ul style="list-style-type: none"> ○ 感想をロイロノートのカードに入力して発表者に送る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 感想をカードに入力する。 ・ 改善点を提案し、カードに入力する。 ・ 考えがまとまらない。 ○ 本日の振り返りをロイロノートシンキングツールに記入し、ロイロノートの提出箱に提出する。 ○ 学習を振り返り、次時の流れを確認する。 	<p>生徒に聞き、関心を高めさせる。(時間にもよるが、2名は発表させたい。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ グループ活動の際に受け取ったカードの内容をもとに、次回の旋律の再考の時にどのような取組をするかも考えて記入できるとよいことを伝える。 <p>♪ 思 [観察・シンキングツール (カード)]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【A と判断される姿】 旋律が話し合いを通してどのように変化したか振り返り、発言したり具体的に入力したりしている。また、イメージにより近付けるために、次回取り組みたいことを発言または入力している。</p> <p>【C への手立て】 話し合い前の旋律と話し合った後に変更した旋律を対比ながら、どうしてそのように変更したのか生徒に考えさせる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 次回は本時で得たカードを生かし、よりイメージが他者に伝わるように音楽表現を深めていく活動を行い、発表することを伝える。
--	--

8 本時まで使用したシンキングツール

1 時間目



2 時間目



3 時間目



【カードの決まり】

緑…相手への意見・感想カード

白…本日の振り返り・自説など

赤…1回目の作品保存カード (URL)

水…目指すもの・表現したいこと (具体的に)

桃…級友の意見を聞いて改変したところ

(具体的に)

カードの種類

水…目指すもの・表現したいこと（具体的に）

赤…1回目の作品保存カード（URL）

緑…相手への意見・感想カード

桃…級友の意見を聞いて改変したところ

黄…2回目の作品保存カード（URL）

白…本日の振り返り・自説など

9 準備物

- Chrome Book
- プリント
- 筆記用具

第2学年 音楽 学習指導案

令和4年11月10日(木) 5校時
場 所 仙台市立上杉山中学校 武道館
指導学級 2年5組32名
指 導 者 教諭 工藤 友美

1 題材名 「ギターに親しもう～フォークギターで歌おう～」

2 題材の目標

(1) フォークギターのコード(和音)と奏法との関わりを理解するとともに、歌と一緒に演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付ける。

(知識及び技能)

(2) ギターのストロークの変化によって生み出されるリズムの違いを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、歌の伴奏にふさわしい器楽表現を創意工夫する。

(思考力、判断力、表現力等)

(3) ギターの奏法によるリズムや和音の違いに関心を持ち、繰り返し粘り強く練習することを通して、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組む。

(学びに向かう力、人間性等)

○本題材における学習指導要領との関連
指導事項

第2学年及び第3学年 A表現(2)

器楽 ア, イ(イ), ウ(ア)

〔共通事項〕(1)音楽を形づくっている要素:「リズム」

3 題材について

(1) 題材観

本題材は、「カントリーロード」を教材として、ギターの音色や響き、リズムや和音と奏法との関わりを理解しながら、楽曲をギターでコード弾きの伴奏を行い、弾き歌いをする器楽の題材である。曲にふさわしい伴奏を、ギターのコード弾きによって工夫することを通して、楽器の構造や和音の構成音についての特徴を学び、主体的な学習が展開できる。弾き方の工夫を行うためには、持ち方や構え方、置き方など楽器を扱う際に大切な事柄をおさえた上で、基礎的な奏法を体験することが大切である。

また、意欲的、積極的に取り組ませるために、グループ活動を取り入れ、生徒同士が助け合い、学び合う学習を重視することで、生徒同士の関わり合いの中でギターの技能を高めるとともに、音色やリズムを工夫させ、生涯に渡りギターが演奏できる喜びを得られる題材である。

(2) 生徒観

2年5組は、音楽の授業に積極的に取り組む生徒が多い。7月の合唱祭に向けた練習では、練習方法を工夫したり、話し合いの時間を重ねて曲に対する思いを共有したりしながら、仲間と一緒に歌うことの楽しさを味わいながら取り組んでいた。

歌うことへの興味・関心が高い傾向があるので、器楽の単元も歌と一緒に学習できるフォークギターを用いての弾き歌いを設定した。

本授業を行うにあたり、ギターについての授業に関するアンケートを行ったところ、以下のような結果が表れた。

- | | |
|---|-----------------------------------|
| 1 | 家庭にギター(クラシック, フォーク, エレキ)がありますか。 |
| | ある 3人 ない 29人 |
| 2 | ギターを触ったことがありますか。 |

ある	5人	ない	27人	
3	家族や身近な人でギターを弾く人はいますか。			
	いる	2人	いない	30人
4	「ギター」の授業でやってみたいことは何ですか。			
	<ul style="list-style-type: none"> ・あいみょんやゆずのように弾き語りがしたい！ ・自分で弾けるようになって、将来趣味にできたらいいなと思う。 ・バンドを組みたい。 ・みんなと合奏したい。 			

アンケート結果から、器楽についての関心が高いことが分かった。器楽の授業については、楽譜を読むこと、運指などを覚えることが苦手な生徒もなかにはいるが、合唱祭での練習を通して、皆で演奏することを楽しむ気持を持つ生徒は多い。

昨年度の「箏」の学習では、友人と関わりながら全員が「さくら さくら」を演奏できるようになった。楽しみながら活動できる生徒たちのため、思いや意図を持ち、よりふさわしい演奏の仕方を工夫することで、表現することの喜びを味わせたい。

(3) 指導観

本題材のねらいを達成するために、以下のような手立てで指導に当たる。

- ①題材全体の目標や各時間の活動内容を生徒が理解し、見通しを持って学習に取り組むことができるよう、振り返りシート（ロイロノートで提出）を活用する。
- ②表現を工夫する場面では、ペアや全体で意見交換させながら、自分の意見に自信を持ったり、他者の意見から新たな気づきを得させたりしながら考えを深めさせる。
- ③より多くの意見を共有し、自分の考えを深めるためにロイロノート内やペア活動などの場を設定する。

4 教材について




1974年に発売され全米2位の大ヒットとなった曲。現在でも多くのミュージシャンによってカバーされており、CMや映画などで耳にすることも多い名曲である。


G, Em, C, Dという比較的押さえやすい4種類のコードのみで弾くことができるので、ギターが未経験の生徒でも取り組みやすい教材である。また、いろいろなストローク奏法による伴奏ができるので、楽曲の雰囲気をつかえてストロークを工夫したり、カッティングなどの技術を用いて、歌いながらギターを弾く弾き語りをする中で、伴奏の役割について理解を深めたりすることもできる。

5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 ギターの音色や響き、リズムや和音と奏法との関わりについて理解している。 技 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。	思 ギターのストロークリズム、和音を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現としてどのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	態 ギターの構造や奏法による音色や響き、リズムや和音の違いに関心をもち、音楽活動を楽しみながら繰り返し練習に取り組むなど主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。

6 指導と評価の計画

時	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	知・技	思	態
第一時	◎ギターのストロークの変化や響きを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、ギターの構造や奏法との関わりについて知るとともに、ギターの音色や奏法への関心をもつ。			
	○ギターの演奏に関心をもつ。 ・ギターの演奏や楽器に触れ、その魅力について話し合い、共有する。 ○本題材の見通しをもつ。 ・コード弾きによる弾き歌いで「カントリーロード」を演奏することを覚える。 ○「カントリーロード」について知る。 ・旋律を歌って覚える。 ・コード（和音）について理解する。 ○本時の振り返りをする。 ・ロイロノートに振り返りを記入する。			
第二時	◎創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法を身に付け、ギターで演奏する。			
	○コードの押さえ方を実際に演奏しながら理解する。 ・ギターを弾くときの姿勢やコードの押さえ方などを知り、ギターの響きを味わいながらギターに貼ったシールを参考に練習する。 ○基本のコードを覚えて練習する。 ・G, Em, C, D ○本時の振り返りをする。 ・ロイロノートに振り返りを記入する。			
第三時	◎「カントリーロード」の伴奏を演奏しながら、音色や響きと奏法との関わりについて理解する。			
	○前時の学習を振り返る。 ・前時の学習を振り返り、自分の課題を確認する。 ○歌に合わせて弾く練習を通して、ギターの音色や響きと奏法との関わりを感じ取る。 ・歌と伴奏の重なりを確認する。 ○ストロークについて知り、曲の雰囲気に合ったストロークの演奏方法を考える。 ・ダウンストロークのみで練習し、コードを鳴らすタイミングを確認する。 ・アップストロークも交えたリズムパターンを練習する。 ○アクセントやカッティングの奏法を知る。 ○本時の振り返りをする。 ・ロイロノートに振り返りを記入する。	(知 観察・ ロイロ ノート)		
第四時 (本時)	◎音色やリズム、和音について知覚・感受したことの関わりから、曲にふさわしい表現としてどのような演奏をするかについて思いや意図を持ち、曲の雰囲気に合ったストロークの方法を工夫する。			

	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・前時の復習をし，本時の学習課題を把握する。 ○曲の雰囲気合ったストロークの方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや意図に合うストロークを教科書の3種類の中から選ぶ。 ・自分の考えに近いストロークになるように演奏方法を考える。 ○本時の振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートに振り返りを記入する。 		(思 観 察 ・ ロ イ ロ ノ ー ト)	
第五時	<ul style="list-style-type: none"> ◎ギターの音色や響き，リズムや和音と奏法との関わりに関心を持ち，本題材の学習を振り返りながら学習活動に取り組むとともに，ギターの演奏に必要な技能を身に付ける。 			
	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・前時の復習をし，本時の学習課題を把握する。 ○発表会を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・互いの演奏を聴き合い，よさを共有する。 ○本題材の学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・学んだことや感じたことを伝えあい，ロイロノートに記入する。 	(技 観 察)	(態 観 察 ・ ロ イ ロ ノ ー ト)	

7 研究主題との関連

(1) 令和4年度 仙台市中学校教育研究会 音楽研究会 研究主題
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

(2) 研究の視点と手立て

視点1 「主体的な学び」の実現に向けての工夫点

<手立て>本題材における目標や目指すべき姿を具体的に示し，生徒が学習を通して何を身に付ければよいかを具体的に提示する。また，毎時の振り返りを「この時間の学習で課題に感じたことは何か」とし，入力をロイロノートで行い，そのデータを次時の導入に生かすことで，生徒の主体的な学びを促し，自己の変容を客観的に把握できるようにする。

視点2 「対話的な学び」の実現に向けての工夫点

<手立て>学び合いが活発に行われるように，ペア学習やグループ学習を取り入れる。実際に演奏したり，演奏についての意見を交換したりして，音楽を通して生徒同士が交流できるようにする。また，生徒・生徒間や教員・生徒間の対話を活性化させるためのツールとして，ICTを活用する。

視点3 「深い学び」の実現に向けての工夫点

<手立て>お互いの考えや演奏に対して意見を述べ合う場面を設け，自分の意見に自信を持ったり，他者の意見から新たな気づきを得させたりしながら考えを深めさせる。

8 本時の学習指導

(1) 本時の目標 「曲の雰囲気合ったストロークの方法を工夫しよう」

(2) 本時の指導に当たって

視点1 毎時の振り返りを「この時間の学習で課題に感じたことは何か」とし、入力をロイロノートで行い、そのデータを次時の導入に生かすことで、生徒の主体的な学びを促し、自己の変容を客観的に把握できるようにする。

視点2 実際に演奏したり、演奏についての意見を交換したりして、音楽を通して生徒同士が交流できるようにする。また、生徒・生徒間や教員・生徒間の対話を活性化させるためのツールとして、ICTを活用する。

視点3 お互いの考えや演奏に対して意見を述べ合う場面を設け、自分の意見に自信を持ったり、他者の意見から新たな気づきを得させたりしながら考えを深めさせる。

(3) 指導過程

○主な学習活動 ・予想される生徒の反応	◇指導者のかかわり ♪評価 [方法]
<p>○前時の復習としてG, Em, C, Dのコードの押さえ方を確認し、「カントリーロード」を教科書の3種類のストロークパターンで弾き語りする。</p> <p>○本時の学習課題を把握する。</p>	<p>◇ロイロノートに提出された前時の振り返りを把握させる。</p> <div data-bbox="815 837 1353 1099" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>視点1 毎時の振り返りを「この時間の学習で課題に感じたことは何か」とし、入力をロイロノートで行い、そのデータを次時の導入に生かすことで、生徒の主体的な学びを促し、自己の変容を客観的に把握できるようにする。</p> </div> <p>◇2人1組（得意な生徒・不得意な生徒）でギター1本を用い、「カントリーロード」の弾き語りができるように練習させる。コードの変わるタイミングを確認させるために、まずはダウンストロークのみで合わせる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>曲の雰囲気合ったストロークの方法を工夫しよう</p> </div>	
<p>○弾き語りの練習を通して、ストロークを工夫する。</p> <p>(1) 自分の思いや意図に合うストロークを3種類の中から選び、ロイロノートに思いや意図を記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優しくなめらかな旋律だから、ゆったりしたリズムのストロークにしたい。 ・前向きな歌詞を生かして、元気な雰囲気をリズムで表現したい。 <p>(2) 自分の考えに近いストロークにアクセントやカッティングなどの技法を取り入れるかどうか検討する。</p>	<p>◇3種類のストロークをロイロノートに動画で載せておき、生徒がいつでも活用できるようにしておく。</p> <p>◇ペアのどちらかが練習している場合には、隣でコードを読み上げたり、歌ったりするよう声掛けする。</p> <p>◇ストロークを練習しながら歌うことが難しい生徒には、ロイロノートに載せておいた歌のみの音源を流しながら練習させる。</p> <p>◇ストロークパターン楽譜に、アクセントにしたい音には○を、カッティングしたい音には×など、印をつけるよう指示する。</p>

<p>(3) 仲間の発表を聞き、新たな気づきを自分の演奏に生かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・△△△さんのあのリズムが、考えと合っていていいな。 ・もっとこうしてみてもうかな。 <p>○最後にロイロノートで全体共有し、互いに感想などを述べ合う。</p> <p>○本時のまとめとして演奏する。</p> <p>○学習を振り返り、次時の流れを確認する。</p>	<p>視点2</p> <p>実際に演奏したり、演奏についての意見を交換したりして、音楽を通して生徒同士が交流できるようにする。また、生徒・生徒間や教員・生徒間の対話を活性化させるためのツールとして、ICTを活用する。</p> <p>◇生徒の考え方の変容が分かるように、考え方や演奏方法の変化の過程もロイロノートに記入させる。</p> <p>♪思[観察・ロイロノート]</p> <p>曲にふさわしい器楽表現としてどのように演奏するかについて思いや意図をもっている。</p> <p>【Aと判断される姿】</p> <p>曲にふさわしいストローク方法について、話し合いの中で詳細に発言したり、ロイロノートに書いたりしている。</p> <p>【Cへの手立て】</p> <p>ストロークの動画を流しながら、生徒と一緒にカントリーロードを歌い、どのストロークがよいか、なぜそう感じたのかなど生徒に考えさせる。</p> <p>視点3</p> <p>お互いの考えや演奏に対して意見を述べ合う場面を設け、自分の意見に自信を持ったり、他者の意見から新たな気づきを得させたりしながら考えを深めさせる。</p> <p>◇本時で考えたことを生かして「カントリーロード」の弾き語りをさせる。(指名)</p> <p>◇この時間の学習で課題に感じたことは何か、ロイロノートに振り返りを記入させる。</p> <p>◇次時が学習のまとめであることを伝え、意欲を喚起する。</p>
--	---

9 準備物

- ・ chromebook (1人1台)
- ・ テレビ

令和4年度 教育課程研究協議会 発表要項

音楽 (中)	主体的・対話的で深い学びを実現する学習指導の在り方 ～表現ワードや ICT 機器の活用を通して～	仙台市立鶴が丘中学校 教諭 煙山 真由美
-----------	---	-------------------------

1 主題設定の理由

平成 29 年に改訂された中学校学習指導要領総則で、各教科等において身に付ける資質・能力は「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理された。そして「この三つの柱が偏りなく実現されるよう、単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通しながら、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと」¹と示された。仙台市中学校教育研究会の音楽研究会においても、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり」を研究主題として研究を行っている。

この研究主題の実現のために、これまで音楽を形づくっている要素の理解や、知覚と感受の関係を深める学習、自他の考えを共有する場面の設定を行ってきた。昨年の学習では、生徒の言葉の選択肢が少ないために、聴き取ったことや感じ取ったことを、ふさわしい言葉で表現することが難しいと感じる生徒が多いことが課題となった。また、表現したい言葉が浮かんでも、音楽を形づくっている要素との関係付けに難しさを感じる生徒が多いことが分かった。

その課題を改善するためには、音楽を聴いて感じ取ったことを具体的に表す言葉（以下、「表現ワード」とする）の活用や、ICT 機器を活用した自他の考えを共有する学習活動が有効であると考えた。

表現ワードを手掛かりとして、音楽を聴いて自分が感じ取ったことを具体的な言葉で表現したり、音楽を形づくっている要素を関係付けたりすることで、主体的に音楽に親しもううとする態度が育つと考えられる。また、ICT 機器の活用で自他の考えを共有することで、多くの表現方法を知り、他者と協働しながら学び、音楽を深く聴こうとする力が育つと考えられる。以上のことから、この主題を設定した。

2 研究の目標

- ・表現ワードや ICT 機器を活用した学習活動を通して、自分の考えを具体的に説明したり他者の考えを知って、自己の考えを広げ深めたりすることで、主体的・対話的で深い学びの実現ができるようにする。

3 研究の方法、内容

(1) 「表現ワード」を活用した、音楽を形づくっている要素との関わりの理解

鑑賞の学習時に、「軽やかな」や「なめらかな」などの具体的な様子を表す言葉を紹介し、音楽を形づくっている要素との関わりについて考えさせ、具体的な言葉で表現する方法について理解させる。

(2) ICT 機器を活用した、自他の考えを共有する場面の設定

Chromebook の Jamboard の付箋機能を活用する。音楽を形づくっている要素ごとや、配役の旋律ごとに付箋の色を指定する。生徒は音楽を聴き、知覚した特徴や感じ取ったことを記入する。自他の考えを共有することで、音楽を幅広く捉えられるようにする。

-1-

4 研究の概要

(1) 「表現ワード」を活用した、音楽を形づくっている要素との関わりの理解

- ① 対象 第1学年
- ② 題材名 「春 第1楽章(和声と創意の試み第1集「四季」より)/ヴィヴァルディ作曲
- ③ 場面 第1時の展開の場面
- ④ 内容

ア 「春 第1楽章」の全合奏部分を聴き、その音楽の特徴から、ソネット「〇〇がやってきた」にふさわしい言葉とその理由を自分なりに考える。自他の考えを共有する。(この段階では、具体的な言葉で表現している生徒が少ない)。

イ 「軽やかな」「なめらかな」「迫力のある」などの様々な表現ワードを用いて、そのあとに続く言葉を、音楽を形づくっている要素と関係付けて考える。グループで記入した内容を全体で共有する。

⑤ 研究の成果と課題

中1音楽プリント
「音楽を形づくっている要素」 **どんな表現方法があるかな?** ○○なリズム?

① 下の表現ワードが、どの要素と関わりが深いかを考え、点線内に記入しよう(要素と要素の間や複数の記入も可)。
 ② 点線の4行目には、自分で考えた表現ワードを記入しよう(2こ以上)。5行目に他者の考えを記入しよう。

	リズム	音色	速度	強弱	旋律(高低・長短)
	軽やかな	生き生きとした	迫ってくる		悲しい
	堂々とした	迫力のある	激しい		耳が刺さる
	やわらかい				生き生きとした
自	一定の		落着いた		流れるような
他	はなはだ、細い	明るい、暗い	焦っている、ゆたゆたと	消えつつ	

表現ワード： 軽やかな ・ なめらかな ・ 迫力のある ・ 悲しげな ・ 激しい
 やわらかい ・ 堂々とした ・ 迫ってくる ・ 生き生きとした

1年 組 番
名前

図1 表現ワードを用いた音楽を形づくっている要素と関係付けを理解するためのワークシートの記入例

④内容のアの学習活動では、「○○がやってきた」に入る言葉を思い付いた生徒は多いものの、その理由について「楽しそうだったから」や「レストランで流れているような音楽だったから」といった漠然とした返答が多く見られた。そこから、「なぜそのように感じたのか」の教師の問いに対して、「音が弾んでいた」や「優雅な感じがした」といった返答が見られた。また他の生徒からは、「弾んでいるのはリズムのことで」や「優雅なのはヴァイオリンの音色だからだと思う」などの発言も見られた。自分の考えに他者の意見が加わり、より具体的な特徴に気付くことができた。

イの学習活動では、音楽を形づくっている要素から、生徒が考えやすい5種類を用いて学習を行った(図1)。自他の考えを共有する場面では、他者と同意見であったことで、自分の考えに自信を持つ様子が見られたり、表現ワードの意味を幅広く捉えながら、考えを共有したりする様子が見られた。

自分で表現ワードを考えて音楽を形づくっている要素を関係付ける活動では、ふさわしい言葉が思い付かない生徒が全体の2割ほど見られた。その生徒に対しては、他者の考えを記入させたり、語群にある表現ワードに似た表現を考えさせたりして、考え方の幅を広げる学習を行った。

(2) ICT機器を活用した、自他の考えを共有する場面の設定

- ① 対象 第1学年
- ② 題材名 「魔王/シューベルト作曲」
- ③ 場面 第1時の展開の場面
- ④ 内容

ア「魔王」の音源を聴き、この曲の題名と、そう考えた理由について、Jamboardの付箋に書き込む。
 イ Chromebookに取り込んだ父、子、魔王の旋律の一部分の楽譜を見たり、その音源を聴いたりして、それぞれの特徴に気づき、どの旋律がどの役であるかを考える。

ウ 配役ごとに付箋の色を指定し、Jamboardの付箋に自分の考えを記入する。自他の考えを共有する。

⑤ 研究の成果と課題

< 1の1 > この曲の題名を考えよう。その理由を音楽の諸要素を用いて説明しよう。

< 予想した題名とその理由 >

付箋(色)： 速度(黄) 強弱(緑) 旋律(音の高低、長短)(青) リズム(赤) 形式(オレンジ)

「叫び」強弱が激しいため。	「悲しみ、強く」なったり弱くなったりしたから	「楽しさ、静し」さで、音楽が聞かれているようだったから	「強弱」強弱が激しいから	「魔」音が低くて暗い感じがするから	「魔」全体的に音が低くて暗い感じがしたから	「魔王」全体的に激しく不様なリズム
「魔」鼻に強く」なったり、鼻に弱くなったりして	「声」大きい声でいって聞かされた感じがしたから	「魔」強く」なったり弱くなったりしたから	「魔」強弱が激しいから	「夜の森」音が低いから	「魔」全体的に音が低くて、強弱が激しいから	「魔王」怖そうなりリズムだったから
「魔王」鼻の強弱が魔王が振り回す子に比べて	「感情」強弱に差があったから	「叫び」強弱が激しいため。	「怒り」強弱が大きいから	「魔」全体的に強く低い音がなると、強弱が激しいから	「だだだ」速度速かったから	「怒り」怒ると鼻になるように音の高さが低くなったから
				「魔」強く」なったり弱くなったりしたから		

図2 Jamboardを活用した魔王の題名とその理由を考える学習

④内容のAの学習活動では、音楽を形づくっている要素ごとに付箋の色を指定して学習を行った。生徒は音楽の特徴を聴き取り、ふさわしい題名とその特徴を短い文章でまとめた(図2)。付箋の色を分けたことで、どの要素の特徴に気付いた生徒が多かったのかが、一目で分かることができた。また、短い文章でまとめたことで、自分と同じ考えであることに気付いたり、他者の考えを知って気付きの幅を広げたりしている様子が見られた。記入ができなかった生徒は、より多くの考えを知り、次の課題に取り組むために参考になっている様子が見られた。



図3 父・子・魔王の旋律の一部と音源 (classroom内で共有)

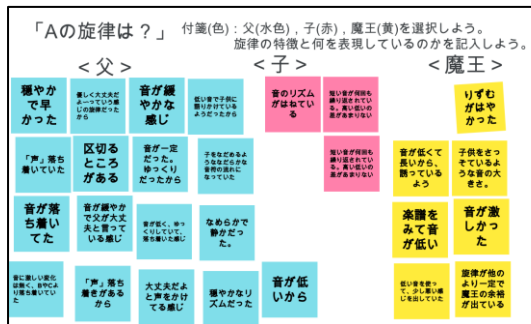


図4 Jamboardを活用したどの役の旋律であるかを考える学習

この学習活動では、父・子・魔王の旋律の中でも、違いを見取りやすい一部分を抜き出して提示し、その部分の音源を取り込んだ(図3)。生徒は旋律を見ながら何度も音源を聴いて、旋律の高低や長短の違いに気付こうとする様子が見られた。

ウの学習活動では、配役ごとに付箋の色を指定し、イで考えたことを短い文章でまとめた(図4)。付箋の色の違いで、どの配役を選んだのかが一目で分かることができた。また、短い文章でまとめたことで、自分と同じ考えであることに気付いたり、他者の考えを知って気付きの幅を広げたりしている様子が見られた。Aの学習活動で記入ができなかった生徒の多くは、他者の考えを参考にしてウの学習活動に取り組んだ。他者と同じ気付きであったことで自信が芽生え、他の配役の旋律の特徴に気付こうと音源を何度も聴く様子が見られた。また、自分の予想した配役が正答と違っていても、感じ取ったことと音楽を形づくっている要素の特徴との関係性に気付き、納得をしている様子も見られた。

読譜に慣れていない生徒の数名が音楽を形づくっている要素を選択する際に、「音が伸びている」を「速度が遅くなった」と聴き取り記入していた。事前の学習で音符の種類やその長さについて学習をしていたため、「どうしてそのように聴き取ったのだろうか」を生徒全員に考えさせた。音の長さの違いによって、落ち着いて聴こえたり焦って聴こえたりすることに気付くことができ、楽譜を見て気付くことと、聴いて気付くことそれぞれの大切さについて共有することができた。

5 まとめと今後の課題

「表現ワード」の活用によって、生徒は音楽を聴いて感じ取ったことを具体的な言葉で表現しようとする力が身に付いた。また、表現ワードと音楽を形づくっている要素を関係付けるために、音楽を繰り返し聴いてその特徴に気付こうとする態度が育ったと考えられる。

ChromebookのJamboardの活用によって、より多くの考えを共有することができるようになった。さらに色別の付箋の使用は、自分と他者との共通性に気付いたり、異なる考えから気付きの幅を広げたりする一助となったと考えられる。

主題設定の理由に述べた「言葉の選択肢が少ない」という現状の改善については、他教科との連携を図りながら、自分が感じ取ったことを具体的な言葉で表現できるための指導方法について研鑽を積んでいく。

ICT機器の活用では、学習内容に合った効果的な活用を模索していく。今後は、ロイロノートの活用や音楽アプリの選定に努めていく。

6 参考資料

<参考文献>

- ・文部科学省「中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 音楽編」, 2018, 教育芸術社
- ・副島和久・伊藤義博 編著「指導と評価がつながる! 中学校音楽授業モデル 第 1 学年」, 2021, 明治図書

<引用文献>

- 1 文部科学省「中学校学習指導要領(平成 29 年告示)」, 2018, 教育芸術社, p 77

令和4年度 第74回 仙台市小・中・高等学校児童生徒作曲コンクール

令和4年度 第74回 宮城県小・中・高等学校児童生徒 作詞・作曲コンクール

令和4年度
第74回 仙台市小・中・高等学校児童・生徒

作曲コンクール

令和4年度
第74回 宮城県小・中・高等学校児童・生徒

作詞・作曲コンクール

○中学校の部

開催日 令和4年11月7日(月)～
11月11日(金)

会場 各中学校

仙台市作曲コンクール

参加校：10校
参加人数：31人

第一部 作品数：10 入選数：1
第二部 作品数：32 入選数：4
合計 作品数：42 入選数：5

☆入選(県提出)作品 作曲者

K.A 秀光中 : I-A
A.F 上杉山中 : II-A
C.Y 白百合学園中 : II-A
C.Y 白百合学園中 : II-B
C.Y 白百合学園中 : II-C

○受賞者一覧(仙台市関係のみ)

☆作詞の部

特選 : I.K 第二中
特選 : A.F 上杉山中
優秀 : S.N 聖ウルスラ中
優秀 : S.N 聖ウルスラ中
優秀 : S.I 高砂中
優秀 : F.S 中山中
優秀 : H.I 中山中
優秀 : S.G 中山中
優秀 : T.I 鶴が丘中
入選 : K.S 聖ウルスラ中
入選 : F.M 五橋中
入選 : M.M 五橋中
入選 : A.H 高砂中
入選 : I.Y 中山中
入選 : M.S 鶴が丘中
入選 : A.K 鶴が丘中

☆作曲の部

♪仙台市教育委員会教育長賞
C.Y 白百合学園中 : II-B

♪宮城県連合中学校教育研究会音楽部会長賞
C.Y 白百合学園中 : II-C

♪入賞

A.K 秀光中学校 : I-A
A.F 上杉山中学校 : II-A

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名		仙台市立五城中学校	授業者 山田 宏子
題材名 構成を工夫して作曲しよう			
授業 の 構 想	題材 の 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二部形式を理解して、楽譜を作成することができる。 【知識・技能】 ・ aの部分とのつながりを意識したbの部分を作成することができる。 【思考・判断・表現】 ・ 積極的にピアノアプリを使って音を確認し、自分の作品を作り上げようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 	
	研究 の 視 点	視点1	・二部形式を理解しているか。
		視点2	・aとのつながりを意識したbのメロディーを作成することができるか。
		視点3	・ピアノアプリを使って音を確認しながら、自分の思いや意図を楽譜で表現できているか。
本時 ねらいと 視点	日時	令和 4 年 10 月 3 日 (月)	指導学級 3 年 3 組
	ねらい 視点	Chromebook のピアノアプリを使って音を確認しながら、作曲活動を行う。	視点 1・2・3
II 指 導 過 程		学習活動	指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】
	導 入	1 本時の課題を確認する。 2 二部形式を確認する	・二部形式は8小節のまとまりのメロディーが2つあることを確認させる。
	展 開	3 音楽ワークブック p.44 を開き bの部分を作成する。Chromebook のピアノアプリを開く。 ハーモニーの進行を気にしながら作 曲する。 4 ワークブックに出来上がったメロディ ーを丁寧に記入する。 5 作品を鑑賞する。	・前時に作曲した「a」の部分とのつながり、変化に気を 付けながら「b」を作成させる。 【視点2】 ・メロディーが思い浮かばない生徒には「F→C→D→G」 のハーモニー進行を示し、和音構成音の中から音を選 ぶよう助言する。 ・周囲に配慮し、イヤホンを使用させる。イヤホンを持っ ていない生徒は音量を小さくするよう声掛けする。 【視点3】
	終 結	6 振り返り アンケートを記入する。	・自分が工夫したところや他の人の作品を聞き合っ て感じたことを感想にまとめる。

<成果と課題>

- ・ chromebook のアプリを使うことにより、音を出して確認しながら作曲活動を行うことができた。
- ・ 自分の作品の確認や他の人の作品を聞くことができた。
- ・ 音符を書いて楽譜を完成させることに思いのほか時間がかかっているため、楽譜作成が簡単にできるようなソフトを導入できたら良いと思った。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名 仙台市立東華中学校		授業者 佐藤 美由紀	
題材名 ギターのよいフォームを身に付けて演奏を楽しもう			
I 授 業 の 構 想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> フォークギターの正しいフォームと奏法を理解し、その技能を身に付ける。【知識・技能】 ギターに関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、奏法や表現を創意工夫する。【思考・判断・表現】 ペア学習の特性を生かし、ギターに関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、奏法や表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組む。【主体的に学習に取り組む態度】 	
	研究の視点	視点1	ロイロノートで毎時を振り返り、次時の始めに共有化を行う取り組みが、分かる授業につながる授業展開になっているか。
		視点2	基礎の確認をした後に、ペアでお互いのフォームの写真を撮り話し合うことが、より正しく美しいギターの奏法になるなど、ICTの効果的な活用につながっているか。
視点3	分かる授業をつくるための手段として、ICT機器の活用が生徒一人ひとりの主体的な発想を促すことができているか。		
本 時 ね ら い と 視 点	日時	令和5年2月8日(水)	指導学級 2年5組
	ねらい	よりよいフォームでギターの演奏ができるようにICTを活用する。	視点 1・2・3
II 指 導 過 程	学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】
	導入5	<ul style="list-style-type: none"> 前時取り組んだギターの基礎知識と奏法の学びについて、<u>ロイロノートで振り返ったものを共有化する。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> <u>タブレット端末を大型モニターとつないで提示する。</u> 前時の学習を思い出し、他者の意見で参考になるものやよいと感じたものをノートに記入し、自分の意見と比較しながら考えを深めるように促す。
	展開35	<ul style="list-style-type: none"> 楽器の扱い方を確認しながら、ソフトケースから丁寧にギターを出して、前時に学習したG、D、Cのコードの練習を交代しながら行う。 ペアで交代しながら、<u>chromeブックで写真を撮りあい、お互いのフォームについて指摘しあう。</u>同時に、自らのフォームについて振り返る 「ハッピーバースディ」をペアで交代しながら弾く。 全員で「ハッピーバースディ」を歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者の意見で参考になるものやよいと感じたものは、色を変えて記入し、自分の意見と比較しながら考えを深めるように促す。 <u>自分がギターを弾いている姿を実際に写真で見ることで、実際に座奏する時のフォームと左手の押さえ方が既習したものどどこが違うのか考える。</u> ペアの相手に改善点を指摘することで、お互いの学びが深まるように声掛けをする。
	終結10	<ul style="list-style-type: none"> 最後に学級全体で「ハッピーバースディ」の弾き語りを行う。 <u>ロイロノートで本時の振り返りを各自行う。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ペアで、弾く人歌う人または、2つを同時にできる人という形で、交代しながらクラス全体で2月が誕生月の級友の名前を入れながら弾き語りをする。 とても簡単な曲なので弾き語りをしながらギターの楽しさを思いっきり味わう。

<成果と課題>

- ペアで写真を撮り合うことで、客観的に自分のフォームを見つめることができ、教師が指摘するだけの場合よりも、非常に効果的であった。練習曲「ハッピーバースディ」の弾き語りに、生徒たちは笑顔で生き生きと取り組んでいた。
- コード譜でも chrome ブックを利用すればよかった。フォークギターの購入が予想以上に時間がかかってこの学級が初めての授業だったため、授業の流れがスムーズにいかなかった。他学級では時間がかからないように工夫したい。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり			
学校名 仙台市立八軒中学校		授業者 笹谷 侑大			
題材名 花					
I 授業の 構想	題材の 目標	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞の内容や曲想，旋律とリズムを理解する。 【知識・技能】 創意工夫を生かした歌唱表現をするための技能を身に付ける。 【知識・技能】 歌詞の内容や曲想，旋律と強弱との関わり，リズムを知覚・感受し，自分の思いやイメージを持って表現の工夫をする。 【思考・判断・表現】 歌詞の内容や曲想，旋律と強弱との関わりに関心を持ち，意欲的に歌唱表現に取り組む。 【主体的に学習に取り組む態度】 			
	研究の 視点	視点1	教師の教えを基に，生徒が自ら考え，学びを活用しながら学習に取り組む場面を設定する。		
		視点2	教員や生徒同士の対話ができるような雰囲気を作るため，机間指導やノートワークを行う。		
	視点3	パワーポイントを用いて板書をし，音楽を見える化する。			
本時 ねらいと 視点	日時	令和 5年 1月 16日 (月)	指導学級	3年 4組	
	ねらい 情景をイメージしながら，強弱を生かして歌う。				視点 1・2・3
II 指導 過程		学習活動	指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】		
	導 入	1. 前回の復習をする。	○CD（歌唱付）を流して歌わせる。 ○前回のプリントを確認させながら，パワーポイントで説明する。		
	展 開	2. 強弱記号と意味を確認する。	○板書をする。 ○生徒と対話しながら強弱記号の意味を説明する。 ○教科書の強弱記号に丸を付けさせる。【視点3】		
		3. 強弱を意識して歌う。	○CD（ピアノ伴奏のみ）を流しながら，大きさに強弱を表現させる。		
	4. 歌詞と強弱の関係性に着目する。	○歌詞と強弱の関係性について説明をする。【視点1】			
	5. 個人で自分なりの強弱の意味を考える。	○机間指導をして，助言をする。			
	6. 全体で意見を共有する。	評価：思考判断表現①ワークシート			
終 結	7. 強弱を生かして歌う。	○ノートワークで意見を共有させる。【視点2】 ○CD（ピアノ伴奏のみ）を流して歌わせる。			

<成果と課題>

強弱と歌詞の内容を関連させたことで，音楽の見方・考え方を働かせることができた生徒が多かった。本時に留まらず卒業の歌においても生かせるような意識が持つことができたと思う。本時は2時間の評価計画で，1時間目に歌詞の内容を理解していることが前提で2時間目を展開した。1時間目に欠席した生徒が多かったことと2時間目の最初の復習や強弱記号の意味の確認が十分にできたら生徒の学びもより深まったのではないかと思った。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり			
学校名 仙台市立長町中学校		授業者 信山 栄香			
題材名 詩と音楽との関わりを感じ取って、鑑賞しよう					
I 授 業 の 構 想	題材の目標	<p>・曲想と音楽の構造との関わりを理解する【知識・技能】</p> <p>・音色、リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、曲の良さや面白さを味わって聴く</p> <p style="text-align: right;">【思考・判断・表現】</p> <p>・詩と音楽との関わりや歌唱表現の工夫に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。【主体的に学習に取り組む態度】</p>			
	研究の視点	視点1	ワークシートやChromebookを活用し、他者の考えに触れる活動を多く取り入れ、自分の考えを深めさせる。		
		視点2	Chromebookを活用して、音源の聴きたい部分を繰り返し聴けるようにすることで、曲の特徴に気づかせる。		
		視点3	Jamboardを活用して他者と意見を共有することで、自己のイメージと音楽の構造との関わりを捉えさせる。		
本時ねらいと視点	日時	令和 5年 1月 19日 (木)	指導学級	1年 9組	
	ねらい	音楽の仕掛けを見つけ、詩と音楽との関わりを理解する			視点 ①・②・③
II 指 導 過 程	学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】		
	導入	○「魔王」を聴き、感じたことを発表する。	・本時の目標を黒板に書く。		
		○本時の目標と流れを確認する。			
	展開	○音色、リズム、速度、旋律、強弱に着目し音源を聴き、知覚したことをワークシートに記入する。	・ヘッドフォンを配布し、音源を入れたChromebookで繰り返し聴き、なるべく多くの特徴に気づかせる。		
○詩と音楽との関わりを考えワークシートに記入する。		・音色、リズム、速度、旋律、強弱を生かしてどのように詩を表現しているか考えさせる。			
終結	○班で登場人物ごとの音楽の構造をJamboardにまとめる	・生活班で各自がワークシートにメモしたことをJamboardにまとめさせる。			
	○班でのまとめを全体で共有し、詩と音楽の関わりを理解する。	・TVにJamboardの画面を映し出して発表させる。自分が気づけなかった意見が出た場合はワークシートにメモさせる。			

<成果と課題>

- ・jamboardを使うことによって意見の共有がしやすくなり、生徒が以前より多くの意見に触れることができるようになった。自分では気づけなかった音楽の仕掛けに気づくことができ、深い学びにつながった。
- ・まとめ作業に少し時間がかかってしまったため、知覚したことの記入の部分からワークシートではなくJamboardを使用すると、その後のまとめも効率的に進められたと思う。

令和4年度 仙台市音楽教育研究会教育実践記録

音楽研究会		研究主題	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり		
学校名		仙台市立西多賀中学校	授業者 堀江 哲史		
題材名		イメージの共有を通して楽曲の世界観を広げ、歌唱表現を深めよう			
I 授業の 構想	題材の 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。 【知識・技能】 ・歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫する。 【思考・判断・表現】 ・音色(発声、発音)や速度、強弱の特徴によって生み出される雰囲気や表情などの変化に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにする。 【主体的に学習に取り組む態度】 			
		研究の 視点	視点1 楽曲から豊かにイメージを膨らませ、自分の言葉で表現するための発問の工夫		
	視点2 イメージを効率的に共有し、楽曲の捉え方を深めるための ICT 機器の活用				
	視点3 多様な楽曲の捉え方を基に、ふさわしい歌唱表現を工夫するためのパート練習				
本時	日時	令和5年2月6日(月)	指導学級	3年4組	
ねらい と視点	ねらい 楽曲の多様な捉え方を知り、ふさわしい音楽表現を考えよう。		視点 ①・②・③		
II 指導 過程	導入	学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】	
		1 卒業合唱曲の1番を合唱する。	・発声練習を兼ねるとともに、曲の表している情景をイメージしながら歌うよう促す。		
	展開	2 楽曲全体のイメージを色で表すなら何色かを考え、理由を共有する。 ・歌詞の思いの強さ → 赤 ・澄み渡った空をイメージ → 水色		【視点1, 2】 ・ロイロノートのテキストカードでイメージに近い色を選び、文字は入力せずに提出箱に提出させる。提出後に、提出箱の画面をホワイトボードに大きく映し出し、全体共有する。 ・寒色・暖色、色の濃淡など、各生徒の選んだ色の違いから、なぜその色を選んだのかを数人に質問し、楽曲にいただいていたイメージを言葉にしていく。 ・本時はサビに焦点を当て、出された色の中から、よりふさわしい色合いを考え、具体的なイメージを共有する。	
		3 出された意見を基に、サビの部分のイメージを膨らませる。 ・濃い色合いが合っている。未来への決意を表現したい。 ・暖色系のイメージで、友達への強い思いを声で表現すると良い。		・イメージを表現するためにどのような表現が考えられるか、音色、強弱、速度など様々なアプローチを試しながら、より良い表現を考える。	
	4 共有したイメージを基に、サビを合唱する。				
終結	5 サビのイメージを短い言葉で表す。		・ロイロノートのテキストカードにサビのイメージを一言で入力し、提出する。次時に全体で共有することを伝える。		

<成果と課題>

楽曲にふさわしい表現を考えるために、楽曲をより深く捉える手立てとして各生徒のイメージの共有を図った。その際、ロイロノートの活用により多様な意見を一度に、効率的に共有することができ、楽曲へのイメージをより具体的にすることができた。また、短時間で共有することで、音楽活動に費やす時間の確保にもつながった。各生徒のイメージの違いについてさらに掘り下げることで、楽曲の様々な側面について気づき、更なる表現の創意工夫につながるものと考えている。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名 仙台市立郡山中学校		授業者 吉田朱里	
題材名 箏「さくらさくら」			
I 授業 の 構 想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 琴の音色や響きと奏法を身につける。創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身につけ、器楽で表している。 【知識・技能】 ・ 箏の音色や奏法、旋律、を知覚し、それらの働きが生み出す特性や雰囲気を感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現としてどのように演奏するかについて考えや意図を持っている。 【思考・判断・表現】 ・ 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 	
	研究の視点	視点1	ペア活動でお互いの姿勢や奏法のチェックをしあうことで良い悪いを自分で判断できるようにする。
		視点2	chromebook で演奏している姿を撮影し、見本の姿勢と比較して正しい姿勢を意識させる。
	視点3	自ら進んで練習に取り組めるように自身の演奏を振り返り、できている点、課題を見つけさせる。	
本時 ねらいと 視点	日時	令和4年 1月 23日 (月)	指導学級 1年 7組
	ねらい	正しい姿勢・奏法を身につけて演奏しよう。	視点 ①・②・3
II 指 導 過 程	導入	学習活動 1. 準備物の確認をする。 2. 今日の目標を確認する。 目標：基本姿勢を身につけ、演奏しよう。	指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 座席と持ち物の確認をする・ ・ 「良い音」を鳴らすために姿勢を意識させる。
	展開	2. 前時の復習としてプリントに記入をする。 3. 実際に音を鳴らしながら確認をする。 4. 「さくらさくら」の続きを練習していく。(1人2分ずつ) 5. 練習している時の姿勢チェックをする。ロイロノートにふりかえりと写真を貼り付ける。(提出する) 6. 曲を演奏しながら姿勢を意識して練習に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 口頭だけではなく、動きを見せながら復習していく。 手立て1 ペアで姿勢・奏法のチェックをしあ ・ 良い音を鳴らすためには正しい姿勢・奏法を定着させる。 ・ 姿勢に気をつけて取り組むように声がけをする。 ・ 音程とリズムの確認のために歌う。 手立て2 演奏している姿を撮影し、姿勢の確認をする。 ・ 姿勢や奏法が正しいかどうか自分で判断させる。 ・ chromebook の操作に手こずっている人がいないか机間巡視・アドバイスをする。
	終結	8. 学習の振り返りをする。	

<成果と課題>

相手の取り組みについてよく観察し、良い悪いを自己で判断できた。また、相手の観察をすることにより、自分が実践する姿勢を意識して取り組んでいる生徒が多かった。授業後のふりかえりでも「意識して弾いたけど動画で見ると背筋が曲がっていたから改善した」と自ら気づくことができ、技術習得に向けて意欲的に授業に参加することができた。一方で撮影方法や機器操作に慣れない生徒がおり、有効的な活動にならなかった生徒もいたため、指示や説明の仕方に課題がある。

音楽研究会		研究主題	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり		
学校名		仙台市立北仙台中学校	授業者 山口 景子		
題材名		ICTを活用した創作活動 ～5音音階で創作しよう！～			
I	授業の 構想	題材の 目標	<ul style="list-style-type: none"> 音階や音のつながり方の特徴について理解するとともに、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表す。【知識及び技能】 リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、まとまりのある創作表現を創意工夫する。【思考力、判断力、表現力等】 音階や音のつながり方の特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組む。【学びに向かう力、人間性等】 		
		研究の 視点	視点1	主体的な学びを実現するための工夫 → ICT機器の効果的な活用 Chrome Music Lab の Song Maker で楽しみながら4～16小節の創作を行う。	
			視点2	対話的な学びを実現するための工夫 → 作品の発表（ペア・全体） 互いに聴き合う活動や教え合う活動の場面を意図的に作る。	
視点3	深い学びを実現するための工夫 → ICT機器の効果的な活用・例示 創作したものを聴いて確かめ、試行錯誤しながらより良いものを作る。				
本時 ねらいと 視点	日時	令和4年11月	指導学級 1年生 3クラス		
	ねらい	沖縄の琉球音階やリズムの特徴を生かし、それらの働きによって生まれる よさやおもしろさを感じ取りながら、音の組み合わせを工夫し、旋律をつくる。		視点 1・2・3	
II 指導 過程		学習活動	指導上の留意点と評価		
	導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> 北海道の「ソーラン節」を歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> DVDに合わせて歌う。姿勢や口の形、声の出し方を真似て、囃子詞やコブシなどを工夫する。 民謡音階（ド・レ・ミ・ソ・ラ）を確認する。 		
	展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄の民謡を聴く。音階やリズムの特徴を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 映像で沖縄の楽器や踊りを見る。漁のときに歌う曲でも、地域によって違うことを意識する。 琉球音階（ド・ミ・ファ・ソ・シ）を確認する。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ①学習のねらいを知り、見通しをもつ。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 学習目標 : 5音音階で創作しよう！ </div>		
	<ul style="list-style-type: none"> ②琉球音階の音を当てはめて、簡単な創作をする。 琉球音階の5音の中から好きな音を選んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> Song Maker を3連符に設定し、1・3つ目に音を付ける。音色と速度は自由に設定し、音域は3オクターブにする。 使用する音、使用しない音の確認。終止音は「ド」にする。 音を変えることによって、リズムが同じでも全く違う曲になることを示す。 			
<ul style="list-style-type: none"> ③創作した旋律がどのような曲になったか音で確認する。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇本時の評価・・・観察、作品の提出、工夫点の記入</p> <ul style="list-style-type: none"> 音階や音のつながり方の特徴について理解し、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表している。【知識・技能】 5音音階を使って旋律をつくることに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 </div>				
終結 10分	<ul style="list-style-type: none"> ④完成したら保存する。工夫点や感想を記入し提出する。完成したものを聴く。(全体) ⑤5音音階の他の作品を知る。わらべうた・唱歌・童謡等 	<ul style="list-style-type: none"> 隣の席の人と作品を聴き合って意見交換。(個人・ペア) 何人か作品を紹介。音域、休符、反復など工夫点の確認。 次回は、3種類の音階から選び、リズムも自分で考えてつくることを説明。 以前、3～5音のわらべうたや唱歌・童謡を紹介したので、それが Song Maker でどのように表現できるか例を示す。他クラスの生徒の作品を紹介し、創作への意欲につなげる。 			

<成果と課題>

成果は、「Song Maker」の使用により創作の楽しさを味わい、作ってみたいという意欲や関心が高まったことである。ソフトの都合上、音を伸ばせないなど条件が限定されて表現できる幅は狭いが、ロイロノートで途中経過を確認しながら、互いの作品を聴き合うことができ、読譜が苦手な生徒には有効であると感じた。

課題は、感覚的な捉えや表現だけで終わらないようにすることである。思考的な活動や深い学びにするためには音階やリズムの特徴などを理解し、思いや意図をもって創作させることが大切だと感じた。また、音楽的な感性や感覚が優れている生徒が、ソフトの都合上、表現の幅が限られて力が発揮できなかったため、楽器の使用も可能にするなど、個々の能力差に応じた活動になるよう、取り組ませ方に工夫が必要である。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり		
学校名		仙台市立八木山中学校	授業者 宮原 佳奈	
題材名 メロディーを作曲しよう				
I 授 業 の 構 想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> 音のつながり方の特徴や、音の反復・変化・対照などの構成上の特徴について、表したいイメージと関連付けて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。【知・技】 音のつながり方の特徴や、音の反復・変化・対照などの構成上の特徴を知覚し、それらの働きが生み出す特徴を感受しながら、知覚・感受の関わりについて考え創作表現を創意工夫する。【思・判・表】 音楽表現を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習に取り組もうとする。【態度】 		
	研究の視点	視点1	単元（4時間）で1枚のワークシートを作成し、1時間ごとの学びや気付きを言語化していくことで、自身の変容を自覚する。	
		視点2	グループ活動で他者の考えを取り入れ、創作の幅を広げる。	
		視点3	身近な楽曲を「Song Maker」を使い視覚的に捉えさせることで、音の反復・変化・対照などの構成上の特徴の理解を深める。	
本時ねらいと視点	日時	令和 4年 12月 15日（木）	指導学級 1年 5組	
ねらい		音のつながり方の特徴や、音の反復・変化・対照などの構成上の特徴を考えながら、「Song Maker」を使って作曲をする。	視点 1・2・3	
II 指 導 過 程	学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】	
	導入	1 前時の復習 「主人は冷たい土の中に」「雪やこんこ」の音のつながり方の特徴や、音の反復・変化・対照などの構成上の特徴について、イメージと関連付けながら確認する。	・ピアノや「Song Maker」を使いながら、聴覚的・視覚的に効果を確認する。	
	展開	2 本時の活動の確認	◆音のつながり方の特徴や、音の反復・変化・対照などの構成上の特徴を考えながら、「Song Maker」を使って作曲をする。	
		3 創作活動 「Song Maker」を使用しながら、「8小節、4/4拍子、8分音符入力、長音階（7音）、C-dur、7音（黒鍵は含まない）、2オクターブ」の設定で創作活動を行う。 4 中間発表 創った旋律について、グループごとに意見交換する。	◇音のつながり方の特徴や、音の反復・変化・対照などの構成上の特徴を知覚し、それらの働きが生み出す特徴を感受しながら、知覚・感受の関わりについて考え、創作表現を創意工夫している。【思】<ワークシート><観察> ◇創作活動に関心を持ち、音楽表現を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習に取り組もうとしている。【態】<ワークシート><観察>	
	終結	5 本時のまとめ ・自分の作品に取り入れたいところ、次回への見通しをワークシートにまとめる。	・自分の作品に取り入れたいところと感想を記入させる。 ◇創作活動に関心を持ち、音楽表現を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習に取り組もうとしている。【態】<ワークシート><観察>	

<成果と課題>

- ・「Song Maker」を活用することで、創作意欲や協働性を高めることができた。また、音楽を視覚的に捉えることができ、楽曲の深い理解につながった。一方、「Song Maker」から、五線譜に記譜する活動を入れるなど、合唱等の日頃の活動に結び付く視点を取り入れていく必要がある。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名 仙台市立中山中学校		授業者 本間 まり子	
題材名 曲の構成に注目して曲想の変化を味わおう			
授業の構想	題材の目標	・「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。【知識・技能】 ・「交響曲第5番 ハ短調 第1楽章」の音色、リズム、旋律、形式、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。【思考・判断・表現】 ・曲の構成と曲想の変化に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。 【主体的に学習に取り組む態度】	
	研究の視点	視点1	視点を変えながらスモールステップで鑑賞しながら、音楽の構造について理解させる。
		視点2	ロイロノートを活用して、音源を繰り返し聴かせ鑑賞を深める。
視点3	ロイロノートを活用して、お互いの考えを共有し、対話的で深い学びを目指す。		
本時 ねらいと視点	日時	令和5年9月14日(水)	指導学級 2年1組
	ねらい	「曲想と音楽の構造との関わりを探ろう	視点①・②・③
指導過程	学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】
	導入	1. 第1主題の冒頭を聴く。	●正式な曲名を知らせ、ベートーヴェンの交響曲について触れる。 ●動機のリズムを手で打つなどして、動機の特徴をつかませる。
		2. 動機について確認する。	
	展開	3. 本時の目標を確認する。	曲想と音楽の構造との関わりを探ろう
4. 動機に着目して第1主題を聴き、音楽の構造を理解する。		●デジタル教科書を使って、動機の反復と変化で旋律が作られていることを視覚的に理解させる。 視点1 第1主題のみ鑑賞し、音楽の構造について理解させる。	
終結	6. 第1主題と第2主題を比較して、気付いたことや感じたことをグループで話し合う。	視点2 2つの主題の音源をロイロノートで生徒に配付し、繰り返し聴けるようにする。 視点3 ICTを活用し、見方・考え方を広げたり深めたりしながら、確かな学力を身に付けさせる。	
	7. 最後にもう1度、第1主題と第2主題を通して聴く。	2つの主題の特徴と曲想の違いに気付かせ、ロイロノート上でグループの意見が全員で見られるようにする。	
8. ねらいについて学習を振り返る。	●次回の学習の予告をする。		

<成果と課題>

ICTを活用し、主題を繰り返し聴いたり、考えなどを一斉に共有できたりしたことやねらいに迫ることができたと思う。今回は、グループで1台の端末を使用したのが、1人1台でも良いと思った。クローズドブックへの操作に時間がかかることがあったので、時間配分などに気をつけたい。鑑賞では音源聴くのか映像観るのかでも学びの深まりが変わってくると感じた。今後もICTの効果的な活用方法を模索していきたい。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名 仙台市立山田中学校		授業者 尾留川 諒子	
題材名 情景を思い浮かべながら、表情豊かに歌おう 「浜辺の歌」			
I 授業の構想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> 「浜辺の歌」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。【知識・技能】 「浜辺の歌」の旋律、強弱、フレーズを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「浜辺の歌」にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。【思考・判断・表現】 「浜辺の歌」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、我が国で長く歌われている歌曲に親しむ。【主体的に学習に取り組む態度】 	
	研究の視点	<p>視点1 主体的な学び 生徒が見通しを持って学習に取り組むために、ワークシートをGoogleclassroom上で配付し、常に学習のねらいや学習活動の流れを確認したり自分が考えたことや周りの生徒の意見を振り返ったりすることができるようにする。</p> <p>視点2 対話的な学び 生徒同士が正面で向き合わない状態で円（生活班）を作ること曲や歌唱表現に対する率直な感想や意見の共有をしやすい環境にする。</p> <p>視点3 深い学び 「浜辺の歌」の特質や雰囲気にふさわしい表現を工夫する学習活動において8分の6拍子やフレーズ等について体験的な学習を通して捉えさせ、それらが「浜辺の歌」の特質や雰囲気を生み出していることに気付かせ、全体でも確認する。</p>	
	本時ねらいと視点	日時 令和5年1月23日（月）	指導学級 1年 2組
II 指導過程	学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】
	導入	<ol style="list-style-type: none"> 発声練習をする。 前時の復習として「浜辺の歌」を歌う。 前時の復習として、感じ取った曲の雰囲気を確認する。 本時のねらいを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> クロームブックでクラスルーム上にある自分のワークシートと授業記録用のワークシートで振り返らせる。【視点1】
	展開	<ol style="list-style-type: none"> ♪=112のテンポで手拍子をした後に「浜辺の歌」に合わせて歩き、気付いたことをワークシートに記入する。 学級全体で共有する。 メロディーのみで歌い、音の動きやリズムについて気付いたことをワークシートに記入する。 グループで気付いたことを共有する。 全体で共有する。 本時で感受したことや知覚したことを生かして「浜辺の歌」を歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> 手拍子のときに感じた速さと歩いたときに感じた速さの違いをメモするよう促す。 「浜辺の歌」の雰囲気に合った歩き方をするために1～6のどの拍で足を踏み出したら良いかを考えさせる。【視点3】 2小節毎に区切って歌わせ、終わる感じがあるかないかを感じ取らせ、フレーズを知覚させる。【視点3】 1小節の中で音が伸びるときと動くときがあることに気付かせ、それらがどの拍に多いかを知覚させる【視点3】 グループの中で意見を伝え合い、考えを広げたり深めたりさせる。【視点2】 フレーズに合わせてプレスをしたり、8分の6拍子にのって歌ったりするよう促す。
終結	11. 振り返りシートに本時の学習についての振り返りを記入する。		<ul style="list-style-type: none"> 「できたこと」、「できなかったこと」、「次回の課題」を具体的に記入するよう促す。【視点1】

<成果と課題>

8分の6拍子の特徴を捉える活動で、周りの生徒と意見を共有しながら取り組んだり、前時のワークシートを見返しながら音楽の要素を知覚しようとしたりする生徒が多く、主体的・対話的で深い学びができていた様子が見られた。しかし、知覚・感受したことを共有して考えを深める時間が予定よりも長くなったことで、本時のまとめである「考えたことを生かして歌う活動」ができなかった。歌唱の授業において、言葉のやりとりによる学びと演奏を通じた実践的な学びの時間配分は今後の課題である。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名 仙台市立桜丘中学校		授業者 鈴木静香	
題材名 曲想と音楽の構造との関わりを理解するとともに、曲に対する評価とその根拠を考え、音楽のよさや美しさを味わって聴こう。B鑑賞 (1)ア(ア), イ(ア)(イ) 共通事項(ア)			
I 授業 の 構 想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> 「ボレロ」の曲想と音楽の構造を理解する。 【知識】 「ボレロ」の音色、リズム、速度、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えるとともに、曲に対する評価とその根拠を考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。 【思考・判断・表現】 「ボレロ」の楽器の音色の変化に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。 【主体的に学習に取り組む態度】 	
	研究の視点	<p>視点1 「主体的な学び」の実現に向けての工夫点 教科書にある旋律を演奏している楽器に番号を付け、演奏している楽器がどれか分かるようにし、見通しを持って曲を聴かせる。</p> <p>視点2 「対話的な学び」の実現に向けての工夫点 Jamboardの付箋機能を活用し、音楽を聴き、知覚した特徴や感じ取ったことを記入することで、自他の考えを共有させる。</p> <p>視点3 「深い学び」の実現に向けての工夫点 Jamboardで共有したものも活用し、自分の考えを深めさせ、紹介文を書かせる。</p>	
	本時ねらいと視点	日時 令和 4年 8月 25日 (木)	指導学級 3年 2組
II 指 導 過 程	学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】
	導	1 本時の目標と流れを確認する。	作曲家や楽曲について解説する。
	入	2 ボレロについて解説を聞く。	
展 開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 楽器の音色の変化に注目して聴き、印象に残った理由を考えよう </div> <p>3 音楽を聴きながら印象に残った楽器がどれか考え、ワークシートに記入する。</p> <p>4 Jamboardを使用し、仲間の考えを共有する。 ワークシートに記入した3つの</p>		<p>ワークシートに「音楽的な見方・考え方」を働かせて記入することができるよう、机間指導しながら個別に助言していく。</p> <p>評価 「ボレロ」の音色、リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えるとともに、曲に対する評価とその根拠を考えている。【思】〈ワークシート〉 【Aと判断される姿】 「ボレロ」のよさや美しさについて、曲想と音楽の構造との関わりについて自分の考えを加えて詳細に書いている。 【Cへの手立て】 音楽の要素や雰囲気、または自分の考えなど不足している部分について考えることができるよう助言する。</p> <p>自分の内容（音楽の要素と雰囲気について、それらに</p>

	<p>終末</p>	<p>中から1つ選び、紹介したい内容を入力し、付箋で貼り付ける。</p> <p>5 振り返り用紙に記入する。</p> <p>6 次時の内容を確認する。</p>	<p>関わらせた自分の考えについて)との共通点と相違点に注目させる。Jamboardで共有した中から、自分の考えになかったものをワークシートに書き写させる。</p> <p>今日の授業での内容を生かし、紹介文を書くことを伝える。</p>
--	-----------	---	---

<成果と課題>

成果 Jamboardを活用することで、様々な考えを共有することで、個人の考えを広げることができた。音源を個人で視聴することにより、どの部分を聴くか自ら選び、集中して鑑賞し、プリントへの記入ができた。補助資料として、演奏している楽器に番号を付けることで、見通しを持って鑑賞し、プリントに記入する際にも役立てることができた。

課題 ボレロは16分と長い曲のため、聴き直したり、プリントに記入したりしていると、1時間があっという間に終わる。Jamboardの付箋入力も含めると、作業だけで終わってしまうため、共有した部分を聴く、生徒を指名し、発表させるといったことができなかつた。しかし、長い曲であること、楽器が移り変わるということの特徴を生かせるということで、Jamboardの活用は有効である。しかし、子どもたちが一言も発することなく授業が終わってしまうため、ICT活用の難しさを感じた。

音楽研究会		研究主題	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり			
学校名		仙台市立袋原中学校		授業者	三浦 依理	
題材名 「情景と音楽の関わりを感じ取って聴こう」(曲名:「春」-第1楽章-)						
I	授業の構想	題材の目標	<p>・「春」のソネットの内容と曲想の関わりを理解する。 【知識・技能】</p> <p>・「春」の音色、強弱、音の高低を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。 【思考・判断・表現】</p> <p>・「春」の各ソネットの内容と曲想が結び付いていることに感心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。 【主体的に学習に取り組む態度】</p>			
		研究の視点	視点1 「主体的な学び」の視点から	音楽を形づくっている要素を3つ提示し、自ら感じ取ったことを言語化できるようにする。		
			視点2 「対話的な学び」の視点	イヤホン分配器を用いて班活動で意見交換の場を設け、互いの考えを共有させる。		
視点3 「深い学び」の視点	Chromebookのjamboardを活用し他の班の意見から学ぶことで、自己の表現したい思いを、より具体的に言語化できるようにする。					
本時ねらいと視点	日時	令和4年10月25日(火)		指導学級	1年4組	
	ねらい	ソネットの内容と曲想との関わりについて、知覚した要素を踏まえて考える			視点 ①・②・③	
II	導入	学習活動	指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】			
		<p>○前時の復習をする。</p> <p>・5つのソネットの内容と場面の切り替わりを確認する。</p>	<p>・CDで音楽を流し、各場面の切り替わりで挙手させる。</p>			
	展開	ソネットの内容と曲想の関わりを考え、具体的に説明しよう				
		<p>○各班が選択したB~Eのソネットについて、音楽の特徴を個人で聴き取る。</p> <p>★Chromebookのクラスルームに提示されている音源をイヤホンで聴く。</p>	<p>視点1</p> <p>・特に、音色・強弱・音の高低の3つの要素を中心に考えさせる。また、既習の要素である、速度・リズム・旋律についても考えさせる。</p> <p>・要素の働きとソネットの内容が結び付くように記述させる。</p> <p><評価思></p> <p>「春」の音色、強弱、音の高低を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えている。</p>			
終結	<p>○個人で聴きとったことを、班で発表し、共有する。</p> <p>★イヤホン分配器で音楽を共有する。</p> <p>★班で出た意見を、Chromebookのjamboardにまとめる。</p>	<p>視点2</p> <p>・イヤホン分配器を用いることで、どの部分についての意見か分かるようにする。</p> <p>・班長が司会を務め、全員が意見を発表し、jamboardに、要素ごとにソネットの内容を含めてまとめるように声掛けする。</p> <p><評価態></p> <p>「春」の各ソネットの内容と曲想が結び付いていることに感心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。</p>				
	<p>○次時の予告を聴き、個人の振り返りプリントの記入をする。</p>	<p>・次時は、各班のソネットのまとめを発表することや作曲者について学習することを予告する。</p>				

<成果と課題> jamboard の付箋の色を知覚した要素ごとに色分けしたことで、どんなことについて考えたのか、班活動の話し合い際の手助けとなっていた。イヤホン分配器を用いての場面共有に時間を掛けている班が多く見られたため、jamboard にまとめる時間とのメリハリをつけることが必要だと感じた。今後も、効果的な ICT 機器の活用について、学びを深めていきたい。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり		
学校名		仙台市立沖野中学校	授業者 猪狩 利佳子	
題材名		アルトリコーダーアンサンブルを楽しもう		
I 授業 の 構 想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・アルトリコーダーの音色や響きと奏法との関わりについて理解するとともに、他者と合わせて演奏する技能を身に付ける。 【知識・技能】 ・アルトリコーダーの音色を感じ取り、曲の雰囲気を生かした音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図を持つ。 【思考・判断・表現】 ・アルトリコーダーの特徴や基礎的な奏法に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組む。 【主体的に学習に取り組む態度】 		
	研究の視点	視点1	<ul style="list-style-type: none"> ・自信をもって演奏できるように、導入では毎時間、運指の確認や既習曲の復習を行う場を設定する。 	
		視点2	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の雰囲気を生かした音楽表現にするためにどのように工夫するかについて、グループでの話し合う時間を設定する。 	
視点3		<ul style="list-style-type: none"> ・パートリズムの組み合わせによる雰囲気の違いを感じ取るために、さまざまなパターンによる演奏を聴き、意見を交換する場を設定する。 		
本時 ねらいと 視点	日時	令和 5年 2月 22日 (水)	指導学級	2年 5組
	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで協力しながら、どのような演奏にしたいかを話し合い、主体的に練習に取り組むことができる。 		視点 1・②・3
II 指 導 過 程	導入	学習活動 <ul style="list-style-type: none"> ・運指を確認しながらスケールを練習 ・新しい音を提示する (ㄩ、シb) ・既習曲の復習 	指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】 <ul style="list-style-type: none"> ○黒板に運指を掲示し、すぐに確認できるようにする。 	
	展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">リコーダーアンサンブルを楽しもう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさと」の楽譜の配付 ・1パート（メロディ）の練習 ・2パートの練習 ・3パートの練習 ・リズムパターン（BとC）の練習 ・プリントを配布 ・グループでの話し合いと練習 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ねらいを達成するための実践 ・曲の雰囲気を生かした音楽表現にするためにどのように工夫するかについて、グループで話し合う。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ㄩとシbが出てくることを確認する。 ○リズムによって雰囲気が変わること気付かせる ○グループとしてどのような演奏にしたいか。 ○リズムパターンはどうするか。 ○パート分けはどうするか。 <p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○奏法を身に付けて演奏することができる <p>【主体的に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○グループで協力しながら、主体的に練習に取り組むことができるか。 <p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○奏法を身に付けて演奏することができる 	

終 結	・今日の活動を振り返り ・後片付け	○今日の活動を振り返り，来年度につながるような目標をもたせる。
--------	----------------------	---------------------------------

<成果と課題>

昨年度までは感染症の予防のため取り組むことができなかつたアルトリコーダーの授業を，今年度から始めた。歌唱が得意ではない生徒にとっては表現活動に対して消極的になってしまう生徒も，アルトリコーダーでは主体的に取り組む技能も身に付けられたことで意欲や自信につながった生徒も多くいた。また，練習方法や話し合い活動に対しても注意を払いながらの活動となったが，生徒たちの表情や振り返りから，協力して作り上げることの喜びや対話することでの気づきや深まりが感じられた。

練習する時間と話し合う時間が短かつたので，もう1時間増やしてじっくり取り組ませたい。また，演奏を chromebook で録音し自分たちの演奏を客観的に聴き，表現を工夫するなど，ICT 機器も活用できるようにしていきたい。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり		
学校名 仙台市立西山中学校		授業者 山田美樹		
題材名 歌詞が表す情景や心情を思い浮かべ、曲想を味わい表現を工夫して歌おう 「夏の思い出」				
I 授業の 構想	題材の 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解し、「夏の思い出」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。 【知識・技能】 ・リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、その関わりについて考え、ふさわしい歌唱表現を創意工夫する。 【思考・判断・表現】 ・歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協同的に歌唱の活動に取り組むとともに、我が国で長く歌われている歌曲に親しむ。 【主体的に学習に取り組む態度】 		
	研究の 視点	視点1：作詞者・作曲者の意図や思いを知ることで、楽曲の持つ表情や良さを感じ取る。 視点2：ICT機器を使用し他者と考えを共有することで、自分の考えや表現方法の幅を広げる。 視点3：歌唱の技能を伸ばす場面で、生徒の表現方法を基に発声・発音等に触れながら、よりよい日本歌曲の表現を深めていく。		
	本時 ねらいと 視点	日時 令和 5年 2月 1日 (水)	指導学級 2年 1組	ねらい：詩の内容や強弱記号の特徴を手がかりにして、楽曲にふさわしい音楽表現が工夫できるようにする。 視点 1・②・③
II 指導 過程	学習活動	指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】		
	導入	<ul style="list-style-type: none"> ・「夏の思い出」を歌唱する。 →前時に学習した作詞、作曲者の思いを確認し歌唱する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・CDを使用し、机間巡視しながら生徒の歌声を確かめる。
	展開	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を知る。 詩や強弱を手がかりに表現して歌おう ・指定箇所について「詩の情景」「強弱の変化」の特徴を手がかりに、ふさわしい表現をグループごとに意見交換する。 ・グループで出た表現を実際に歌って確かめる。 ・全体でグループの意見を共有する。 ・グループで出た歌い方の工夫で「発声」「発音」にも触れて考えさせる。 		<ul style="list-style-type: none"> ロイロノートで予め用意していたデータに各グループの意見を入力させる。【視点2】 ・歌詞の言葉が強弱記号に結びつき、旋律に影響を与えることに気づかせる。 バーチャルピアノで正確な音を確かめながら歌う。録音して聞き返し、表現を吟味していく。 ロイロノートは画面ロックを掛け、全体で教師用テレビを見る。 ・日本語のイントネーションやアクセントによる歌い方の違いについて例示する。また鼻濁音や子音を意識することで日本語が美しく表現できることに気づかせる。【視点3】
	終結	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動で出た意見を参考に自分の表現を考える。 ・考えた表現で歌唱する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・書きにくい生徒にはプリント裏の「音楽を表現する言葉」を参考にすることも助言する。

＜成果と課題＞

成果・生徒は各班の意見を共有し、他者の意見から新しい見方や考えを得ることができていた。

課題・歌唱表現する上で考える視点をさらに絞り、表現方法を考える時間を確保できれば良かった。

- ・生徒によって課題に対する捉えに差がある。教科を越え「読み取る力」を付ける必要があると感じた。
- ・入力する時間がかかっていた。用紙に書き込ませ、それを画像で提出させるほうが効率的だった。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名 仙台市立秋保中学校		授業者 後藤 結香	
題材名 バロック時代の音楽の特徴を知り、そのよさや美しさを味わおう			
I 授業 の 構 想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> 曲想と音楽の構造との関わりを及び音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解する。【知識・技能】 「四季」の音色、リズム、旋律、強弱、形式を知覚・感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。【思考・判断・表現】 楽器の音色、ソネットに基づいて情景描写された旋律、強弱の変化や、リトルネッロ形式と曲想との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。【主体的に学習に取り組む態度】 	
	研究の視点	視点1	自分のお気に入りの1曲を見つけ、その要因となる音楽の諸要素を主体的に知覚・感受する場面を設ける。
		視点2	ICTを有効的に活用し、新しい気付きに触れ、自分の考えを深める場面を設ける。
視点3		お互いの考えを共有し、自分の考えをさらに広げたり、多様性を認めたりすることができる場面を設ける。	
本時 ねらいと 視点	日時	令和4年9月14日(水)	指導学級 1年 A組
	ねらい	お気に入りの「四季」を見つけ、そのよさを伝えよう	
II 指 導 過 程	学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】
	導入	○前時の学習を振り返り、「春」がソネットを基に作られていることを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ソネットという用語の確認と「春」の音楽的な特徴について、展開に入る前に全体で確認する。
		○「春」の他にも、「夏」「秋」「冬」の曲があることを知る。	
		○「四季」それぞれのソネットの内容を理解する。 ○4曲とも聴き、曲の雰囲気をつかむ。	
展開	○自分のお気に入りの「四季」を1曲決め、その曲のよさはどこにあるのか考えながら聴く。 ※ロイロノートを使用。4曲の音源は資料箱から取り出して聴く。意見はカードに記入し、提出箱に送る。	<ul style="list-style-type: none"> 「春」も含めて4曲のソネットを音読し、内容を理解させる。 4曲とも最後まで聴かせず、おおよその曲の雰囲気をつかませ、それぞれのお気に入りのためのヒントを与える。(この場面では、一斉にクラス全体で聴く) 視点1 気に入った1曲を繰り返し聴くための環境を整える。(ロイロノートの資料箱に4曲とも入れておく。この場面では、それぞれの端末からイヤフォンで聴く) ♪評価【思考・判断・表現】	
	○意見を発表し、考えを共有する。	<ul style="list-style-type: none"> 視点3 提出されたカードを画面共有で提示し、それぞれが感じたことを全員で共有する時間を設ける。 	
終結	○本時の振り返りをする。		・自己評価カードに記入させる。

<成果と課題>

自分が気に入った曲について分析するために、繰り返しその音楽を集中して聴く環境がクロームブックを活用することで整えることができた。またロイロノートを通して、即時にお互いの考えを共有することができるようになった。一斉にスピーカーで聴く方法と個人でイヤフォンを通して聴く方法を、学習内容や場面によって使い分ける必要があると感じた。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名：仙台市立八乙女中学校		授業者：渡辺美智子	
題材名：Drummer に挑戦			
授業の構想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ドラムセットの音色や響きと奏法との関わりを理解すると共に、技能を身に付ける。 ・ドラムセットの音色やリズムを知覚し、それらの動きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現をする。 ・ドラムセットの特徴や基本的な奏法に関心を持ち、音楽表現を楽しみながら主体的・対話的に器楽の学習活動に取り組む。 	
	視点	視点1：主体的に取り組めるよう、個人端末より、個々の関心や技能に応じた範奏動画資料を選択できるように制作設定する。	
	視点	視点2：奏法や技能の向上が図られるよう、録画再生し確認表のもと相互評価を行わせる。 視点3：深い学びを目指し、関心や課題に応じ選択した範奏動画資料を個別に繰り返し視聴したり、メトロノーム画像を利用し速度を変えて練習する場面を設定する。	
本時	日時	令和 4年 12月 14日 (水)	指導学級 2年 5組
ねらい	ねらい：一定の速度でFill-in入りドラムリズムを奏することができるようにする。		視点①②③
指導過程	学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】
	導入	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎打ち練習：🔍動画（真上） <ul style="list-style-type: none"> ・握り方・リズム・速度等を確認 ○速度変化で部分練習🔍動画メトロノーム <ul style="list-style-type: none"> ・8分→16分音符の繰り返し ○基本リズムの確認🔍動画（初めてのDr） <ul style="list-style-type: none"> ・Combination® 	<ul style="list-style-type: none"> ・開始前にクロームブック（以下CB）と消毒したパチを準備しストレッチをさせておく。 ・「TV」「PC」「CB」を準備。 ・音符マグネットカードで音価の復習 ◇マルチド・グリッパ＜観察＞ ◇一定速度とリズム＜観察＞
	展開	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px; text-align: center;">めあて：両手の基礎リズム + 右足BDリズムCD + fill-inが演奏できるようになる</div> <p>1 全体でCombination練習 (1)BDリズム◎をリズム譜で確認練習 (2)BDリズム①をリズム譜で確認練習 (3) fill-inをリズム譜で確認とドリル</p> <p>2 個別でCombination練習 (1)クロームBの授業資料から、個々の課題に応じ範奏録画を選択、再生しながら練習</p> <p>🔍メトロノーム画像 🔍BD画像：A B C D E F G 🔍fill-in画像：a b c d</p> <p>3 ペアで学び合う (1)互いの演奏をクロームB録画・再生 (2)ワークシート項目3～19を相互評価 (3)互いの課題について対話</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エアで鏡範奏 ・音符マグネットでBD譜読 ・黒板に貼付した実寸大パッドで範奏 ・音符マグネットでTTの譜読 ・♩=60のBGMを流す。 ・Combinationやfill-inができた生徒から後方のドラムセットで技能を確認させる。 ◇リズム知覚と技能＜観察＞ ◇録画画像を後日回収
	終結	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートに記入し振り返る ○次時の学習内容を知る 	◇ワークシート回収

<成果と課題>・個々の関心や習得段階に応じた範奏音源を生徒自身が選択し、反復練習が可能となった。
 ・互いの撮影動画を基に学習カードの観点に沿って対話させた。動画が根拠となり比較・統合されたことで新たな課題設定に繋がる意欲的な生徒も見られた一方、下位群の生徒には教師の個別指導が効果的であった

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名		仙台市立向陽台中学校	授業者 佐藤 啓子
題材名 「曲の構成を理解して,曲想を味わおう」交響曲第5番 ハ短調 作品 67			
授業の構想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽について理解する。【知識・技能】 ・音楽の共通性や固有性について考える。【思考・判断・表現】 ・音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。 <p style="text-align: right;">【主体的に学習に取り組む態度】</p>	
	研究の視点	視点1 主体的な学びを実現するための工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の先に, 課題解決のための方法を提示し見通しをもつ。
		視点2 対話的な学びを実現するための工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・班長を中心とした意見交換が活発になる。
視点3 深い学びを実現するための工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントの活用により, 前時までの学習についての確認, 課題, 学習等の成果等が分かる。 		
本時ねらいと視点	日時	令和4年11月11日 (金)	指導学級 2年2組
		異なる指揮者によるオーケストラの演奏を聴き比べ, 解釈の違いから生まれる音色・強弱・速度の違いを味わって聴くことができる。	
指導過程		学習活動	指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】
	導入	1 本時の目標を確認する 強弱・速度・音色の違いを聴き比べることで, それぞれの音楽のよさを味わおう。	・前時の学習内容を確認し, 曲の構成について掲示しておく。(強弱, 速度, 音色)
	展開	2 4人の指揮者の違いによる演奏を聴き比べ, ベートーヴェンの思いを表現するためには, どのような強弱, 速度, 音色がふさわしいのかを考えプリントに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・第1楽章の提示部とコーダの演奏を聴かせる。 ・強弱・速度・音色の3つの観点で演奏を聴き比べることを確認する。 ◎はっきり, やや速い, やや強い ◎重たい, 遅い, やや強い ◎激しい, 速い, 強い (音楽を形づくっている要素(強弱, 速度, 音色, 形式, 構成(ソナタ形式, オーケストラの響きなど)と曲想との関わりを理解し, 根拠をもって批評するなどして, 音楽のよさや美しさを味わって聴いている。【鑑賞の能力】〈プリント・発表)
	閉	3 自分のイメージと合う演奏を選び, どういう点でふさわしいと感じたかを意見交換し, 共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生活班で意見交換を行う。 ・人それぞれの感じ方あり, いろいろな意見をきく中で, 音楽の聴き方を更に深めるために意見交換を行っていることを確認する。
終結	4 本時の目標を振り返る	○本時目標に対しての振り返りになるよう確認する。	

<成果と課題>

・同じ音楽でも, 指揮者の解釈の違いで, 強弱, 速度, 音色が変わり, 曲の感じも変わってくる。そういう違いを味わうことも大切だということをお伝えしたところ, 生徒それぞれの感じ方も発見できた。より深く鑑賞をすることを好む学年なので, さまざまな音楽のよさや美しさを味わえる感性を今後もそだてていくことが大切だと感じた。

音楽研究会		研究主題	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名		仙台市立将監東中学校		授業者 佐々木 茜
題材名		さくらさくら4重奏アンサンブル		
I 授 業 の 構 想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 箏の基本奏法を正しく理解し、演奏する。【知識・技能】 ・ 「さくらさくら」にふさわしいテンポで息を合わせて表現する。【思考・判断・表現】 ・ 班で協力して互いの演奏を聴き合いながら取り組む。【主体的に学習に取り組む態度】 		
	研究の視点	視点1	少人数グループで活動し、お互いの演奏を観察しながら演奏技術向上に努める。	
		視点2	歌唱を組み合わせることで、曲にふさわしいテンポを考える。	
視点3		ハーモニーの重なりに注目し、箏の音の響きに集中させる。		
本 時 ね ら い と 視 点	日時	令和4年 11月 8日 (火)	指導学級	3年 4組
	ねらい	息を合わせて、箏の音の重なりを感じて演奏する。		視点 ①・2・3
II 指 導 過 程	学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】	
	導入	<ul style="list-style-type: none"> ・「さくらさくら」を弦名で歌唱する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・弦名がすらすら言えることで、演奏がスムーズにできるよう暗譜につなげていく。 	
	展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・「さくらさくら」のパート1を一斉に演奏する。 ・「さくらさくら」のパート2を一斉に演奏する。 	視点1 小集団で演奏をすることによって、お互いの演奏姿勢や奏法の確認を視覚的に行うことができる。また、複数の友人で声を掛け合うことにより対話が生まれ、技術向上につながる。	
		<ul style="list-style-type: none"> ・各グループにおいて、個人で練習する。 ・班ごとに別室にて、アンサンブルの練習を行う。 ・苦手な部分を集中的に練習する。 	視点3 別室で集中して音を聴く環境にすることで、ハーモニーの重なりを意識して箏を演奏することができる。	
終 結	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の成果と課題を話し合い、ワークシートへ記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会へ向けた温かい励ましを忘れない。 		

<成果と課題>

成果・・・少人数のグループを編成したことで、苦手意識を持つ生徒にも周囲が配慮しながら演奏に励む姿があった。お互いの演奏を見たり聴いたりできることで、演奏技術を向上させようという意識を根付かせることができた。

課題・・・今回は ICT を活用した授業ができなかった。別室での練習の際に、動画機能を活用し自分たちの演奏を振り返ることができるよう、検討していくことが望ましいように感じた。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名 仙台市立 鶴が丘 中学校		授業者 煙山 真由美	
題材名 曲が生まれた背景を理解し、作曲者の思いを感じ取って鑑賞しよう 「ブルタバ」			
I 授業 の 構 想	題材 の 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲が生まれた背景を理解する。 【知識】 ・ 旋律、速度を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことを関係付けながら聴く。 【思考・判断・表現】 ・ 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 	
	研究 の 視 点	<p>視点1 Chromebook に音源を入れ、個人で曲を繰り返し聴き、曲の特徴に気付かせる。</p> <p>視点2 ワークシートに自他の考えを共有できる枠を設ける。学び合いで互いの意見を共有し、参考になった他者の意見をワークシートに記述し、理解を深める。</p> <p>視点3 曲が生まれた歴史的背景と、曲の特徴を関係付けてより深く鑑賞する。</p>	
	本時 ねらいと 視点	日時 令和 4年 8月 31日 (水) 指導学級 3年 1組	ねらい 曲が生まれた歴史的背景と、曲の特徴を関係付けてより深く鑑賞する。 視点 ①・②・③
II 指 導 過 程	学習活動	指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】	
	導 入	①前時の学習を振り返る	①作曲家、曲名とその意味(川の名前)を復習する。
	展 開	②「ブルタバの主題」と「幅広く流れるブルタバ」を聴き、旋律、速度の違いを知覚し、全体で共有する。 ③ブルタバ(モルダウ)となぜ題名が二つあるかについて知る。 ④曲が生まれた歴史的背景と、曲の特徴を関係付けてより深く鑑賞する。 ⑤作曲者の思いについて自分なりの考えをまとめ、共有する。	②chromebook に音源を入れ、二つの場面を聴き比べてその特徴に気付かせる。【視点1】 ③スメタナが生きた時代と現在のチェコを「国、公用語、川の名前」で比較し、その違いについて理解を深めさせる。 ④曲が生まれた歴史的背景と、曲の特徴を関係付けてより深く鑑賞する。【視点3】 ⑤知覚した曲の特徴と、作曲者の思いを関係付けながら考えをまとめるよう助言をする。 (評価：ワークシートの記入状況)
	終 結	○本時の学習について振り返り、自己評価表に記入する。	

<成果と課題>

Chromebook で繰り返し聴くことで、生徒は曲の特徴に気づきやすくなった。曲の歴史的背景を知って、もう一度聴き返すことで、生徒はより深く鑑賞し、作曲者の思いを考えることができるようになった。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名 仙台市立寺岡中学校		授業者 星澤 亜紀子	
題材名 創ったリズムで和太鼓アンサンブルに取り組もう			
I 授 業 の 構 想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創作するための基本的な事項を身に付けさせる。 【知識・技能】 ・ アンサンブルの内容を考え工夫させる。 【思考・判断・表現】 ・ 自ら演奏するためのリズム創作し、演奏に生かす。 【主体的に学習に取り組む態度】 	
	研究の視点	視点1 自分が創ったリズムを手拍子と和太鼓でたたけるようにする。	
	研究の視点	視点2 持ち寄ったリズムをどうやって重ねて曲を組み立てるか、グループで話し合う場面を設定する。 視点3 グループ毎に、強弱やイメージを膨らませて、どんな演奏にするかを話し合う	
本 時 ね ら い と 視 点	日時	令和 4年 11月 24日 (木)	指導学級 3年 2組
	ねらい	創作したリズムでどんな表現ができるか話し合っ、練習をする	
II 指 導 過 程		学習活動	指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】
	導 入	・ 前時までにつくったリズムを手拍子でたたけるようにする。	・ 各自で創作したリズムを練習し、グループの仲間と合わせる準備をする
	展 開	・ グループに分かれてリズムの重ね方を話し合っ、アンサンブルの設計図（楽譜）を作る。 ・ 設計図が完成したら、グループで和太鼓の重ね方を考える。 ・ 強弱・曲に対するイメージを話し合う。 ・ 手拍子でリズムの重なりや強弱を確認してから和太鼓で練習する。	・ 設計図を持ち寄りグループ内でどのようにリズムを重ねていくかを話し合い記録する。 ☆話し合い活動に参加し意見を発表できる ・ 和太鼓の種類と音色を聞かせた上で、どのような重ね方をするかを話し合う。 ☆リズムと太鼓の音色を味わうことができる ・ 和太鼓で練習する前に手拍子でリズムアンサンブルの練習をする。 ☆意欲的に取り組むことができる。
	終 結	・ 今日の練習の内容を振り返り次時の演奏に生かす。	・ 練習を振り返り、よりよい演奏を目指して反省をする。 ☆演奏をよくするために改善点を考える

<成果と課題>

- ・ 和太鼓をたく活動に意欲的に取り組む様子が見られた。
- ・ 音量・強弱・いい音を鳴らすにはどのようにたたけばいいのかを考えることができた。
- ・ 簡単な創作活動に取り組みそれを演奏するおもしろさを体感させることができた。
- ・ 創作に必要な時間と、和太鼓アンサンブルを組み立てるための設計図（楽譜）作りに時間がかかり、練習時間を捻出するのが難しい。（鑑賞分野との時数の兼ね合い）

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名		仙台市立長命ヶ丘中学校	授業者 加賀山留理子
題材名 箏の様々な奏法を用いて、音色や響きを生かして演奏しよう。			
I 授業の構想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 箏の音色や響きと奏法の関わりを理解するとともに、創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付ける。【知識・技能】 ・ 音色、リズム(間)、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、知覚したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて思いや意図を持つ。【思考・判断・表現】 ・ 箏の奏法や響きの変化に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習に取り組む。【主体的に学習に取り組む態度】 	
	研究の視点	視点1	口唱歌を繰り返し歌い、どんな奏法か、どんな雰囲気になるかを考えることで、音色や響きと奏法の関わりを楽しみながら演奏することができるようになる。
		視点2	一人では難しいと感じる音の変化などをペア学習で進める。また、姿勢や構え方は、録画し合い、目で見て自分の演奏姿を振り返る、友達からアドバイスをもらうことでさらに向上することができる。
視点3	奏法については、すぐ教えるのではなく、教師の模範演奏を見て、聴いて、ペアで相談しながら模倣することで、音色や響きと奏法の関わりについて深く学ぶことができる。		
本時ねらいと視点	日時	令和5年1月31日(火)	指導学級 1年1組
	ねらい	箏の響きや音色を生かして「六段の調」の初めの部分をどのように演奏するかについて思いや意図を持つ。	視点 1・2・③
II 指導過程	導入	<p>学習活動</p> <p>1 箏の構造や演奏するときの基本姿勢、弾き方等を確認する。 「虫づくし」「姫松」</p>	<p>指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回は学習した「箏のいろいろなこと」を質問し学習カードを提示する。 ・ 基本の姿勢や弾き方は、繰り返し指導する。
	展開	<p>2 「六段の調」初段の一行目を聴き、今日の目標について理解する。</p> <p>3 楽譜を提示し、唱歌を歌う。</p> <p>4 「引き色」「後押し」に着目して聴き、音色や響きと奏法の関わりについてペアで考える。</p> <p>5 ペアと相談しながら、演奏する。先生の演奏を思い出す。教科書やクロームブックを見る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師が演奏する。 ・ 「六段の調」初段の一行目を弾きましょう。 ・ 唱歌の歴史にも触れ、どんな奏法になるかなど考えながら歌うことをアドバイスする。 ・ 回数を決めて聴かせ、ワークシートに記入させる。 ・ 2～3ペアに発表させる。 <p>教科書のページ、クロームブックの調べ方を提示する。「生田流・六段の調」で検索。</p> <p>★評価 観察・ワークシート</p>
	終結	<p>6 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 後片付けや爪、箏の消毒をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音色や響きと奏法について分かったことや次回へ向けての目標を書かせる。

<成果と課題>

ペア学習の中で、クロームブックを使い奏法を模索する学習は、興味深く取り組むことができた。唱歌を取り入れたこと、ペアと音色や響きについて話し合うことで、どのように演奏したいかという思いが強くなり、演奏に反映された。教材が多くなり、注意力が散漫になる場面もあり、視覚と聴覚、個人とペアの切り替えが課題であると思う。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名 富沢中学校		授業者 中川 耀太	
題材名 シューベルトの工夫を考察しよう！			
I 授 業 の 構 想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長調と短調が作り出す曲想について理解する【知識・技能】 ・ 知覚したことと感受したことを結びつけて考えることができる【思考・判断・表現】 ・ 「魔王」の良さや工夫について音楽を形づくっている要素に着目して鑑賞しようとしている【主体的に学習に取り組む態度】 	
	研究の視点	視点1	映像付きの音源を聴かせることで、音楽から想像を膨らます手掛かりにさせる。
		視点2	即自的に意見共有を行わせるため、クラスルームのストリームで意見を収集する。
	視点3	ピアノ独奏版の魔王を聞かせ、「旋律（調）」「強弱」に注意して聴かせる。	
本 時 ねらいと 視点	日時	令和 4 年 10 月 12 日 (水)	指導学級 1年 5組
	ねらい	魔王の怖さを味わおう。	視点 ①・②・3
II 指 導 過 程	学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】
	導入 15分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体をほぐし、校歌を歌う ・ 前単元で学んだことを振り返る 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習の歌い方のコツを意識させつつ校歌を歌わせる。 ○音楽を形づくる要素が鑑賞の手掛かりになることを確認する。
	展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> ・ アニメーション付きの魔王（ドイツ語）を聴かせ、感想を書かせる ・ 宝塚版の魔王（日本語）を聴かせさらに感想を書かせる ・ 魔王の原語である「Erlkönig」の意味を考える ・ シューベルトの解説をする 	<ul style="list-style-type: none"> ○聴く視点として「聴いて何を感じたか」を書かせる。例として、聴いて感じた天気、場所、気温、暗さ、気持ち、色、思い出した思い出など聴いて思った事なら何でもいい旨を伝える。 ○日本語から歌詞のストーリー性を感じさせ、さらに感想を書くよう伝える。 ○曲のどこからそう感じたかを考えさせる。 ○考えた意味をクラスルームのストリームで発表させる。一つずつ確認していき気になったものを取り上げ曲のどこからそう感じたかを発表させる。 ○「ます」や「野はら」などを聴かせシューベルトの作品の雰囲気を感じさせる。
	終 結 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ まとめ 	○魔王の魅力はどこにあると思うかという内容の振り返りを書かせる。

<成果と課題>

鑑賞の導入の授業を行った際、音楽を聴いて感受ができない子供が多いことがわかった。この授業を通して「音楽を聴いて何かを感じる」「感じたことを言葉にする」ことができるようにしたいと考えた。そのため音楽の効果を感じさせながらも視覚やストーリー性からも感受ができるように手立てを考えた。成果としては、音楽を聴いて感じたことを書くワークシートに対しての記述量が多くなったことだ。内容においても音楽を聴いて、考えたり感じたりしていることが多くなったように感じた。今後は音楽を形作る要素を手掛かりに感受ができるよう発問や手立てを考えていく必要がある。

ストリームを使った即時性のある情報共有はかなり有効だったように感じる。全生徒の意見に全生徒が目を通せることが大きかった。しかし、送った順に誰でも見れてしまうため同調圧力で自分の意見を周りに合わせてしまったり、自分で考えないまま人の意見を流用してしまう生徒が見られたので、適切な発問と声掛けが必要だと感じた。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名 仙台市立南中山中学校		授業者 佐々木 香奈	
題材名 曲想と音楽の構造との関わりを理解して、その魅力を味わおう			
I 授業の構想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。 【知識・技能】 ・音色、旋律、リズム、テクスチャ、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なり考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。 【思考・判断・表現】 ・歌唱表現に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組む。 【主体的に学習に取り組む態度】 	
	研究の視点	視点1	「共通事項」と関わらせて曲想を感じ取らせ、その理由を音楽の構造から捉えて理解できるように発問・ワークシートを工夫する。
		視点2	Chromebook の classroom に登場人物毎の音源を入れ、個人で繰り返し聴いたり比較聴取したりできるようにし、曲想と音楽の構造の関わりについて気付かせる。
視点3	音楽を聴いて気付いたことや感じ取ったことをジャムボード等で共有し、視点をもって音楽を再度聴く場を設定する。		
本時 ねらいと 視点	日時	令和4年11月25日（金）	指導学級 1年5組
	ねらい	曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。	視点 ①・2・③
II 指導過程	学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】
	導入	① 「魔王」を聴き、曲想や音楽の特徴的な要素について気付いたことを意見交流する。	① 日本語訳詞の音源を聴かせ、音色、旋律、強弱など、音楽の要素の特徴に気付くよう促す。
	展開	② 登場人物や詩の内容、曲想との関わりについて考える。	②音色、旋律、強弱に注目し、旋律が詩の内容の変化によってどのように表現されているか聴き取り、ワークシートに記入する。 Chromebook に音源を入れ、登場人物毎の旋律を聴き比べ、その特徴に気付かせる。【視点1】
		③ 曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。	③捉えた特質や雰囲気が詩の内容とどのような関わりがあるか、作曲者がどのような工夫をしたのかを考え、ワークシートに記入し、グループで共有する。
	④ グループで考えたことを全体で共有し、音源で確認する。	音楽を聴いて気付いたことや感じ取ったことをジャムボードで共有し、視点をもって音楽を再度聴く場を設定する。 【視点3】	
終結	⑤本時の学習について振り返り、自己評価カードに記入する。	④曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。 【観察、ワークシート】	

<成果と課題> Chromebook で、自分が聴きたい旋律を繰り返し聴いたり、登場人物毎の旋律を比較聴取したりできたことで、より音楽的な特徴について気付くことができた。また、ジャムボードを活用することで、全体での意見共有をスムーズに行うことができた。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名 仙台市立茂庭台中学校		授業者 鈴木 香恵	
題材名 『荒城の月』のイメージに合った表現を工夫しよう			
I 授 業 の 構 想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の音色や響きと奏法との関わりについて理解する。【知識・技能】 ・曲にふさわしい音楽表現を創意工夫する。【思考・判断・表現】 ・音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組む。【主体的に学習に取り組む態度】 	
	研究の視点	<p>視点1：自己評価カードの記入を通して、授業の始めに目標を持たせ、終わりに振り返りをする。ロイロノートを活用し、自身の課題に合わせて資料箱の資料を活用したり、楽譜に演奏のポイントを書き込めるようにする。</p> <p>視点2：ペアでの意見交換や、ロイロノートで意見の全体共有をする場面を取り入れることで、考えを深められるようにする。</p> <p>視点3：音源を聴いて、曲の美しさや作者の思いを感じ取る時間を設ける。クロームブックで演奏動画を撮影し、自分の演奏を客観的に聴いてより良い演奏を目指すようにする。</p>	
	本時ねらいと視点	日時 令和4年12月22日(木)	指導学級 2年1組
ねらい		曲のイメージに合った音楽表現を工夫する。	
		視点 ①・②・③	
II 指 導 過 程	導入	<p>学習活動</p> <p>1 箏で「荒城の月」を演奏する。演奏のポイントなどの書き込みをした楽譜(ロイロノート上)を見て演奏する。</p> <p>2 本時の目標と流れを確認する。</p>	<p>指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】</p> <p>視点1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・板書された授業のねらいをワークシートに書く。 ・演奏のポイントを確認してから演奏する。
	展開	<p>3 「荒城の月」の歌唱CDを聴いてイメージを膨らませ、ペアで感じたことや歌詞の意味を話し合う。</p> <p>4 歌詞の意味を確認する。</p> <p>5 作者の思いや曲のイメージを演奏で表現するためにどのような工夫をすればよいか考え、ロイロノートに記入する。(全体で共有)⇒箏を弾いて試しながら考える。</p>	<p>視点2・視点3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで考えを共有した後に全体で共有することで、さらにイメージを広げたり考えを深めたりできるようにする。 ・ロイロノートの課題提出状況を見て、未提出の生徒へ演奏の工夫についてアドバイスをする。 ・工夫点を音で表現することに苦労している生徒には弾き方のアドバイスする。
	終結	6 自己評価カードでこの時間の振り返りをする。	・自己評価カードの記入を通して、生徒のつまずきや学びの過程が分かるようにする。

<成果と課題>

成果：CDで原曲を聴き、曲に込められた思いを考えることで、イメージが広がり、演奏表現の工夫につながられる生徒が多かった。ロイロノートを全体共有モードにすることで、早く書けた生徒の意見を参考にできた生徒もいた。

課題：演奏の工夫について口頭で例を示したが、タブレットに提示した方が伝わりやすかったと思う。

音楽研究会		研究主題	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名		仙台市立高森中学校		授業者 田原 久美
題材名		イメージをもたらす音楽の秘密を探ろう 映画「ジョーズ」から“ジョーズのテーマ”		
I 授業 の 構 想	題材 の 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。 【知識・技能】 ・ 音色, 旋律, テクスチャ, 強弱, 構成を知覚し, それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら, 知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに, 曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え, 音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 【思考・判断・表現】 ・ 曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち, 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。 【主体的に学習に取り組む態度】 		
	研究 の 視 点	視点1	音楽は, 音色, リズム, ハーモニー, 速度, 旋律, 強弱などによって作られていることを学習させる。ピアノや打楽器などで比較聴取させながら確認させる。	
		視点2	音楽を聴いて, なぜそういうイメージをもったのかを, 音楽を形づくっている要素と結びつけさせながら考えさせる。	
		視点3	共有する場面でもタブレットを使用し, その曲のよさや面白さを共有できるようにする。	
本 時 ねらいと 視点	日時	令和4年7月14日(木)		指導学級 1年 2組
	ねらい	グループで発表し合い, 曲のよさや美しさについて共有する。		視点 1 2 3
II 指 導 過 程	学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】	
	導 入	●前時で学んだ「音楽を形づくっている要素」について復習する。	音楽はこれらの要素によって形づくられていることを確認する。(前時ワークシート)	
	展 開	<ul style="list-style-type: none"> ●「ジョーズ」を聴き, 感じたことやイメージを記入する。 ●「ジョーズ」を聴き, 「怖い」「強い不安」「追われている」などと感じたその理由を, 音楽を形づくっている要素と結びつけてワークシートに記入する。 ●グループ(4人)になり, お互いの意見を発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何人かの生徒に発言させ, 板書する。 ・ 各自がそれぞれ諸要素に関連付けて捉えることができているか巡視し, 助言する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> タブレットで自分が聴きたいところを何度も繰り返し聴くことができるようにする。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ お互い捉えた特徴を発表し合うことによって, 曲のもつよさや美しさを共有できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> タブレットをグループの発表場面でも使用し, 確認できるようにする。 </div>	
	終 結	<ul style="list-style-type: none"> ●全体で「ジョーズ」を鑑賞する。 ●振り返りを記入する。 		

<成果と課題>

聴きたい時に聴きたいところを聴くことができるのは, タブレットの利点である。グループでの発表の場面で, 具体的に「その部分」を同時に聴くことができ, 共感できる活動へとつながった。生徒によってその音楽を捉える視点は様々で, グループだけでなく全体での共有も取り入れたかった。「ジョーズ」だけでなく, 他の映画音楽でも同じ活動ができれば, さらに学びが深まったと思う。

令和4年度 仙台市音楽教育研究会教育実践記録

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり		
学校名 仙台市立田子中学校		授業者 高橋 菜々子		
題材名 箏曲の特徴を感じ取り、魅力を味わおう				
I 授 業 の 構 想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・箏の奏法を理解するとともに、さくらさくらを演奏するために必要な技能を身に付ける。 ・楽器の音色や響きと奏法との関わりについて理解している。【知識・技能】 ・音色、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。 【思考・判断・表現】 ・箏の特徴や基礎的な奏法に関心をもち、主体的・協働的に学習に取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 		
	研究の視点	視点1	自分の創作したい前奏のイメージを具体的に書けるようにワークシートを工夫する。	
		視点2	学び合いが活発に行われるように、グループ学習を取り入れ、他者の意見をChromeBookで共有できるようにする。	
		視点3	お互いの考えや演奏に対して意見を言う場面を設ける。自分の演奏を動画で撮影し、考えを深める。	
本時ねらいと視点	日時	令和4年11月22日(火)	指導学級 2年 1組	
	ねらい	「さくらさくら」にふさわしい前奏を考えよう		
II 指 導 過 程	学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】	
	導 入	1 前時の復習	<ul style="list-style-type: none"> ・箏の基本的な奏法を確認する。 「押し手」の奏法について教科書で確認する。 	
		2 本時の目標を確認する		
	展 開	3 「さくらさくら」にふさわしい前奏を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ChromeBookを用いて、「さくら」の写真を参考に創作する。 ・箏を使って音を出しながら創作するように伝える。 	
		4 グループごとに自分の考えた前奏を演奏し、動画で撮影する。		<div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> 視点1 「さくら」のイメージを言葉や絵で記入をし、リズムと音を組み合わせてワークシートに記述させる。 </div>
		5 グループごとに自分の考えた前奏を発表し、他己評価をする。		<div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> 視点3 ChromeBookで撮影した動画を見ながら、他己評価をする。 </div>
			(評価：ワークシートの記入状況)	
終 結	6 本時の学習について振り返り、自己評価に記入する。			

<成果と課題>

成果としては、ChromeBookを活用することにより、自分の演奏を記録に残し、試行錯誤しながら前奏が創作できる。課題としては、創作活動と動画撮影、グループワークとやることが多くなってしまい、創作がおろそかになってしまうので、時間配分など工夫が必要だと感じた。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名		仙台市立住吉台中学校	授業者 田中真紀
題材名 日本伝統音楽の魅力			
I 授業の構想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「能」「歌舞伎」「文楽」の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解する。【知識】 ・「能」「歌舞伎」「文楽」の音楽の音色、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えるとともに、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。【思考・判断・表現】 ・「能」「歌舞伎」「文楽」の旋律の雰囲気や歌い方の違いに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。【主体的に学習に取り組む態度】 	
	研究の視点	<p>視点1 「主体的な学び」の視点からの授業改善 ねらいを明確にするとともに、ロイロノートを活用することで、繰り返し音源を聴きながら音楽の特徴について気づいたり考えたりできるようにする。</p> <p>視点2 「対話的な学び」の視点からの授業改善 活発に意見交換ができるようにするためのツールとして、ロイロの共有ノートを活用する。</p> <p>視点3 「深い学び」の視点からの授業改善 学びの深まりをつくりだすために、生徒の思考を促すための問いかけを行う。</p>	
	本時ねらいと視点	日時 令和5年1月25日(水)	指導学級 3年 2組
II 指導過程	学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】
	導入	○本時のねらいの確認 「能」「歌舞伎」「文楽」の音楽表現の特徴や違いを感じ取ろう	
	展開	<ul style="list-style-type: none"> ○「能」「歌舞伎」「文楽」の音源を聴き、個人でそれぞれの音楽の特徴について気づいたことをワークシートにまとめる。 ○音楽表現の特徴や違いについて、グループで意見交換する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇「これやこの～」の詞章の部分を chromebook で聴くことができるようにしておく。 ◇ロイロの共有ノートを活用し、意見交換する。使用するカードの色は重ならないように決めておく。意見交換する中で新しく出た意見は白。
	終結	<ul style="list-style-type: none"> ○全体で意見を共有する。 ○学習の振り返りとまとめ 	<p>視点2 活発に意見交換ができるようにするためのツールとして、ロイロの共有ノートを活用する。</p> <p>♪愚①[観察・ワークシート] 「能」「歌舞伎」「文楽」の音楽の音色、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えている。 【Aと判断される姿】 感受したことと知覚したことを結びつけて考えており、その内容が妥当であり詳細に記述されている。 【Cへの手立て】 「これやこの」の部分にしぼって違いを聴きとるよう促す。</p> <p>◇「能」「歌舞伎」「文楽」から選択し、自分が良いと感じた音楽について理由とともにワークシートにまとめる。</p>

<成果と課題>

ICTの活用に関して苦手意識を持っていたが、実際に使ってみることで、どのように活用できるか、どのように活用していけばよいかイメージすることができた。共有ノートの活用は、互いの考えを視覚でも捉えることができ、活発な意見交換を行うためのツールとして有効であると感じた。全体での共有をスムーズに行うこともできるが、反面、他の人が書いた意見を勝手に消すこともできてしまうため、ルールをしっかりと守らせることが必要だとも感じた。

映像資料ではなく、音声のみにしたことで、より音に集中させることができた。また、同じ詞章の部分の比較鑑賞だったこともあり、音楽の特徴や違いを感じ取らせることができた。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名 南吉成中学校		授業者 山崎 郁絵	
題材名 歌詞と旋律が生み出す雰囲気を感じ、ふさわしい歌唱表現を考えよう			
I 授 業 の 構 想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。【知識・技能】 ・ 速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。【思考・判断・表現】 ・ 歌唱の表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・共同的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、我が国の名曲を歌い継いでいく心情や態度を育む。【主体的に学習に取り組む態度】 	
	研究の視点	視点1	本時の目標に対して自己評価を行う場面を設け、学習の見通しを立てたり振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できるようにする。
		視点2	作詞者の言葉や、モデルとなった城の写真などから、曲に込められた思いを知ること、自分の考えを広げたり深めさせたりする。
		視点3	他者と意見を共有したり、互いの演奏を聴き合ったりする場面を設け、自分の考えなどを広げたり深めたりできるようにする。
本時ねらいと視点	日時 令和 4年 11月 16日 (水)	指導学級 2年 2組	ねらい 歌詞と旋律から曲想を感じ取り、音楽表現をできるようになる 視点 ①・②・③
II 指 導 過 程	学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】
	導入	○前時で学んだ曲の背景を思い出しながら範唱を聴く。	
	展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 原曲と編曲された作品を比較し気付いたことや感じたことをワークシートに記入する。 ○前時に考えた音楽表現を個人で歌い試し、気付いたことをワークシートに記入する。 ○ワークシートを基に発表し合い、学級全体で歌い試しながら、曲にふさわしい音楽表現について共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の歌声をクロームブックで録音・再生し、ふさわしい歌唱表現ができているかを確認しながら歌い、気付いたことなどをワークシートに加筆、修正させる。 ○歌唱が難しい生徒は朗読可とする。 ○ 歌詞のもつ重々しさやせつない雰囲気、七五調の言葉のリズム、旋律の動きと強弱との結びつきを意識しながら、繰り返し音読したり歌ったりするよう促す。 ◇ [思・判断・表] 速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。 <p>【観察、ワークシート】</p>
	終結	○自己評価カードに本時の振り返りを記入する。	

<成果と課題>

- ・ 自己評価を行うことで、自身の学びや変容を自覚していた。その結果、自身の能力を高めるために、他者の作品から学ぼうとする姿が多く見られた。
- ・ 互いの演奏を聴き合い、自分の作品に反映させる時間を十分に確保できなかったため、時間の見通しを持つ。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名 仙台市立松陵中学校		授業者 越坂泰彦	
題材名 歌曲の表現に親しもう			
I 授 業 の 構 想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロールプレイにおいて表現の工夫ができる。 【知識・技能】 ・ 演奏者の表現の工夫を感じ取る。 【思考・判断・表現】 ・ 積極的にロールプレイに取り組む。 【主体的に学習に取り組む態度】 	
	研究の視点	視点1	演奏を参考にしてロールプレイの表現に生かさせる。
		視点2	グループ内でお互いのロールプレイの表現について検討し、表現の向上に生かさせる。
		視点3	歌唱と伴奏の融合を感じ取り、劇的な表現につながっていることを理解させる。
本 時 ねらいと 視点	日時	令和 4年 12月 15日 (木)	指導学級 1年 1組
	ねらい	演奏を参考にしてロールプレイの表現に生かさせる。	視点 ①・②・③
II 指 導 過 程	学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】
	導 入	○魔王を聴く 教科書などを開かず、予備知識がない状態で聴き、どんな状況か、どんな風景か想像する。	○映像や資料を見せず、想像力を働かさせる。 評価① 具体的な風景、状況を想像できる
	展 開	○歌詞を全員で朗読する。 ○4人グループを組む。 ○ロールプレイをする。 ○グループ内でお互いの表現について討論する。(役割交代も可)	○句読点を意識させ、抑揚を付けて読ませる。 ○人数の都合で3人グループの場合は、父と語り手を兼任させる。 ○真剣に取り組ませる。また、徹底的に表現させる。 評価② 迫真の演技ができる ○お互いの表現の良い点、改善すべき点を指摘し合い、表現の向上に生かさせる。
	終 結	○代表の発表(各役2～3名)と感想	○各役2～3名を選出し、演じさせる。 ○発表を見て表現の工夫を感じ取り、感想を書かせる 評価③ 表現の工夫を感じ取れる

<成果と課題>

歌いながらの表現は大変難しいので、今回は朗読という形で行った。生徒にとっては取り組みやすい様子であった。また、演技することの難しさを体験することによって、プロの演奏のすばらしさを改めて味わわせることができた。

音楽表現の中での「表現」については体験させられなかったので、もっと平易な楽曲で表現させることも考えたい。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名：仙台市立館中学校		授業者：岩崎秀徳	
題材名：楽器の音色や響きを感じ取りながら演奏しよう (ギター きらきら星)			
I 授業 の 構 想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・創意工夫を生かした表現で演奏するための技能を身につける。【知識・技能】 ・曲想に合った表現をするために思いや意図を持って演奏している。【思考・判断・表現】 ・主体的・協働的に表現の活動に取り組んでいる。【主体的に学習に取り組む態度】 	
	研究の視点	視点1：創意工夫を生かした表現で演奏するための技能を身につけるために、段階を踏みながら丁寧に指導を行う。	
		視点2：曲想に合った表現をするために思いや意図を持って演奏するために、曲のイメージを想起させ曲に合った音楽表現を創意工夫する。	
		視点3 主体的・協働的に表現の活動に取り組むために、教師の説明を必要最低限度にとどめ、相互に教え合う活動を多く行う。	
本時 ねらいと 視点	日時	令和 4年 12月 6日 (火)	指導学級 2年 2組
	ねらい	曲想にあった表現をするために思いや意図を持って演奏している。	視点 1・②・3
II 指 導 過 程		学習活動	指導上の留意点と評価 (※)【本時の視点との関連】
	導入	・前時の復習を行う。	
	展開	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲のイメージを想起させ、楽曲にあった演奏方法を考える。 ・考えた演奏方法を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲から想像できるイメージを言葉にして表現させるために、意見を強制させることはしない。 ※根拠を持って楽曲のイメージをとらえることができる。 ・楽曲のイメージと実際に出ている音が一致しているか確認させる。 ※楽曲のイメージに合うように創意工夫を生かした表現で演奏するための技能を身につけることができる。 ※主体的・協働的に授業に取り組んでいる。 <p>【本時の視点との関連】</p> <p>楽曲から想像できるイメージを言葉にして表現させるために、多くの意見を出させる。言葉がでない生徒には、擬音語や擬態語などの平易な言葉を用いるなど工夫する。</p>
	終結	・最後に曲全体を通して演奏する。	

<成果と課題>

【成果】

生徒同士で相互に教え合う活動を活発に行うことにより、生徒同士で得意なところや不得意なところを補い合うことで、より理解が深まった。

【課題】

昨今 ICT 教育の導入が進んでいるが、今回の題材では用いなかった。そのため、今後は ICT を生かした授業も積極的に取り入れていかなければならない。

音楽研究会		研究主題	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり		
学校名		仙台市立広陵中学校		授業者 齋藤 馨	
題材名		音の重なりや構成を工夫して、「かえるのうた」の編曲に挑戦しよう。			
I 授業の 構想	題材の 目標	<ul style="list-style-type: none"> 音楽が生み出す雰囲気や表情などと音楽の構造との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。【知識・技能】 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。【思考・判断・表現】 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴によって生み出される雰囲気や表情などの変化に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作や鑑賞の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにする。【主体的に学習に取り組む態度】 			
	研究の 視点	<p><提案事項> Webアプリ SongMaker を活用した創作活動</p> <p>視点1 直感的な操作で音の配置や重なりを視覚的に捉えることで、試行錯誤を繰り返し、楽しみながら創作活動に取り組むことができるようにする。</p> <p>視点2 自己の創った作品を自動演奏で披露することで、互いの作品から学び、さらに創意工夫を重ねることができるようにする。</p>			
	本時 ねらいと 視点	日時	令和4年11月8日（火）	指導学級	3年 1組
II 指導 過程		学習活動		指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】	
	導 入	○本時のねらいの確認		<ul style="list-style-type: none"> Chromebook にログインし、音楽科のクラスルームに入室させておく。 3年間のまとめの創作活動であることを伝える。 	
	展 開	<ol style="list-style-type: none"> 1 アプリを使って「かえるの歌」の旋律を確認する。 2 編曲の例を使いながら構成上の特徴について理解する。 3 入力方法について確認する。 4 試行錯誤を繰り返しながら8小節の編曲に取り組む。 5 中間発表 		<ul style="list-style-type: none"> 音素材の特徴、音の重なり方、反復、変化、対照などの構成上の特徴について説明する。 作成途中の作品を鑑賞し合い、よいところや自分の作品をよりよいものにするためのヒントを見付けさせる。 	
	終 結	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習内容の振り返り ○次時の予告 			

<成果と課題>

○Chromebook を活用することで、これまで器楽を不得手とする生徒も直感的な操作で、音楽の構造を理解したり、音の響きや重なりを味わったりしながら、試行錯誤を重ね創作する姿が見られた。演奏ができなくても、創った音楽を共有することができ、クラスメートの作品を賞賛しながら鑑賞する様子も見られた。音楽に苦手意識があった生徒も意欲的に取り組めたという感想が多かった。

●本時は一人一人がイヤホンをつけ Chromebook での作業であったため、音楽室に音が響いたのは最後の中間発表のみであった。対話する場面が少なかった。活動に時間を多く割いたため、作曲の具体的な技法についての指導が不足した。

音楽研究会	研究主題	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり	
学校名	錦ヶ丘中学校	授業者	鳴原 葵
題材名	音のつながり方の特徴を生かした音楽をつくろう		
I 授業の 構想	題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> 音のつながり方の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの 技能を身に付ける。【知識及び技能】 リズム、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えながら創作表現を創意工夫する。【思考力、判断力、表現力等】 音のつながり方の特徴に関心を持ち、音楽活動の楽しさを体験することを通して、主体的・協働的に創作の学習に取り組む。【学びに向かう力、人間性等】 	
	研究の視点	視点1	音のつながり方（音程）の違いによる特徴を感じ取らせる。
		視点2	表したいイメージを表現するために、どのように旋律づくりをすればいいか考えさせる。
視点3		完成した旋律を共有し、イメージが伝わるか確認しながら再び旋律を考えさせる。	
本時 ねらいと 視点	日時	令和4年11月21日（月）	指導学級 1年6組
	ねらい	音のつながり方の特徴を生かした8小節の旋律をつくろう	視点 1・②・③
II 指導過程	学習活動	指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】	
	導入	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を確認する。 	
	展開	<ul style="list-style-type: none"> 表したいイメージを持ち、音のつながり方の特徴を生かして後半4小節の旋律をつくる。 (1) Song Maker に音を打ち込みながら旋律をつくる。 (2) 出来上がった旋律はワークシートに記録する。 3人グループをつくり、出来上がった旋律を発表し合う。 (1) 工夫した点は伝えずに旋律のみ発表をする。(Song Maker で再生させる。) (2) 聴く側は発表後に旋律のよかった点や魅力を感じた点について発表する。 (3) 旋律を発表した後に工夫した点を話し合い、アドバイスを言い合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 早く完成した生徒にはよりイメージに近い旋律がないか声がけをしながら考えさせる。(視点2) 旋律がなかなか書けない生徒にはイメージを聞きながら旋律を例示し、イメージに近いものを選ばせる。(視点2) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【Aと判断される姿】</p> <p>リズム、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えながら自分のイメージに沿った創作表現を創意工夫している。</p> <p>【Cへの手立て】</p> <p>どのように音をつなげていけばいいか迷っている生徒には、和音と一緒にいくつかの旋律の例を教師が演奏し、自分のイメージに合う旋律を選択させながら創作活動を進めさせる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 工夫した点やイメージが聴く側に伝わっていたか確認する。(視点3)
	終結	<ul style="list-style-type: none"> 本時の振り返りを行い、次時の流れを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> グループで出た意見を参考に次回の最初は出来上がった旋律を修正する時間を取ることを伝える。 次回の発表会の流れを伝える。

<成果と課題>

Song Maker を使用することで、どのような旋律ができあがったかをその場ですぐに確認できるため、生徒は試行錯誤しながら旋律づくりを進めていた。表したいイメージを表現するためには音楽的な要素が限定されている（ハ長調、リズムは4分音符と8分音符、8小節）ため、苦戦した様子を見せた生徒もいた。

音楽研究会 研究主題		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり		
学校名 仙台市立仙台青陵中等教育学校		授業者 木下 真理子		
題材名 日本に古くから伝わる合奏を聴こう				
I 授業の構想	題材の目標	<p>・「平調越天楽」の音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解する。 【知識・技能】</p> <p>・「平調越天楽」の音色、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、雅楽「平調越天楽」のよさや美しさを味わって聴く。 【思考・判断・表現】</p> <p>・「平調越天楽」の音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。 【主体的に学習に取り組む態度】</p>		
	研究の視点	視点1	ChromeBookに音源を入れ、個人で曲をくり返し聴き、曲の特徴に気付かせる。	
		視点2	ロイロノートを用いて自他の考えを共有したり記入された意見をもとに話し合い活動等をしたりすることで、興味関心や理解を深める。	
視点3		日本の合奏と西洋の合奏の違いやその特徴を、音源を聞き比べることを通して考えや理解を深める		
本時ねらいと視点	日時	令和4年1月16日(月)	指導学級 1年 1組	
	ねらい	日本の合奏と西洋の合奏の違いやその特徴をとらえよう。 視点 1・2・3		
II 指導過程		学習活動	指導上の留意点と評価【本時の視点との関連】	
	導入	①前時の学習を振り返る。	①雅楽についてや箏の音色、旋律の特徴、口唱歌や間について振り返る。	
	展開	②雅楽「越天楽」の音源とオーケストラで演奏された「越天楽」を全体で聴き比べる。 ③ロイロノートを使って個人で音源・動画を視聴し、音色や音の合わせ方、重ね方の違いを知覚する。 ④ロイロノートの共有ノートを使って意見を共有し、考えを深める。	②全体で視聴した後に、ロイロノートに2つの音源・動画を入れて配布し、個人で深く聴き、それぞれの特徴や違いに気付かせる。【視点1】 ③ロイロノートの共有ノートで個人の意見を提出し、似たような意見をすみ分けしながら、日本の合奏と西洋の合奏の違いや特徴の理解を深める。【視点3】	
	終結	④本時の学習について振り返る。		

<成果と課題>

ロイロノートの共有ノートを活用してみたいと考え、本時を組み立てた。ジャムボード同様にリアルタイムでクラスの生徒の意見が見ることができ、付箋のすみ分けもしやすく、また同時に自身のノート上に必要な音源や動画のURLを載せ、個人で聴き直しができるところがロイロノートのよいところではないかと感じた。

生徒の多様な気づきがあったので、教員側の題材に対する知識理解をより高めた上で授業に臨み、生徒の多様な気づきや考えから更に深める発問ができるような授業のコーディネートする力をより高めたいと感じた。